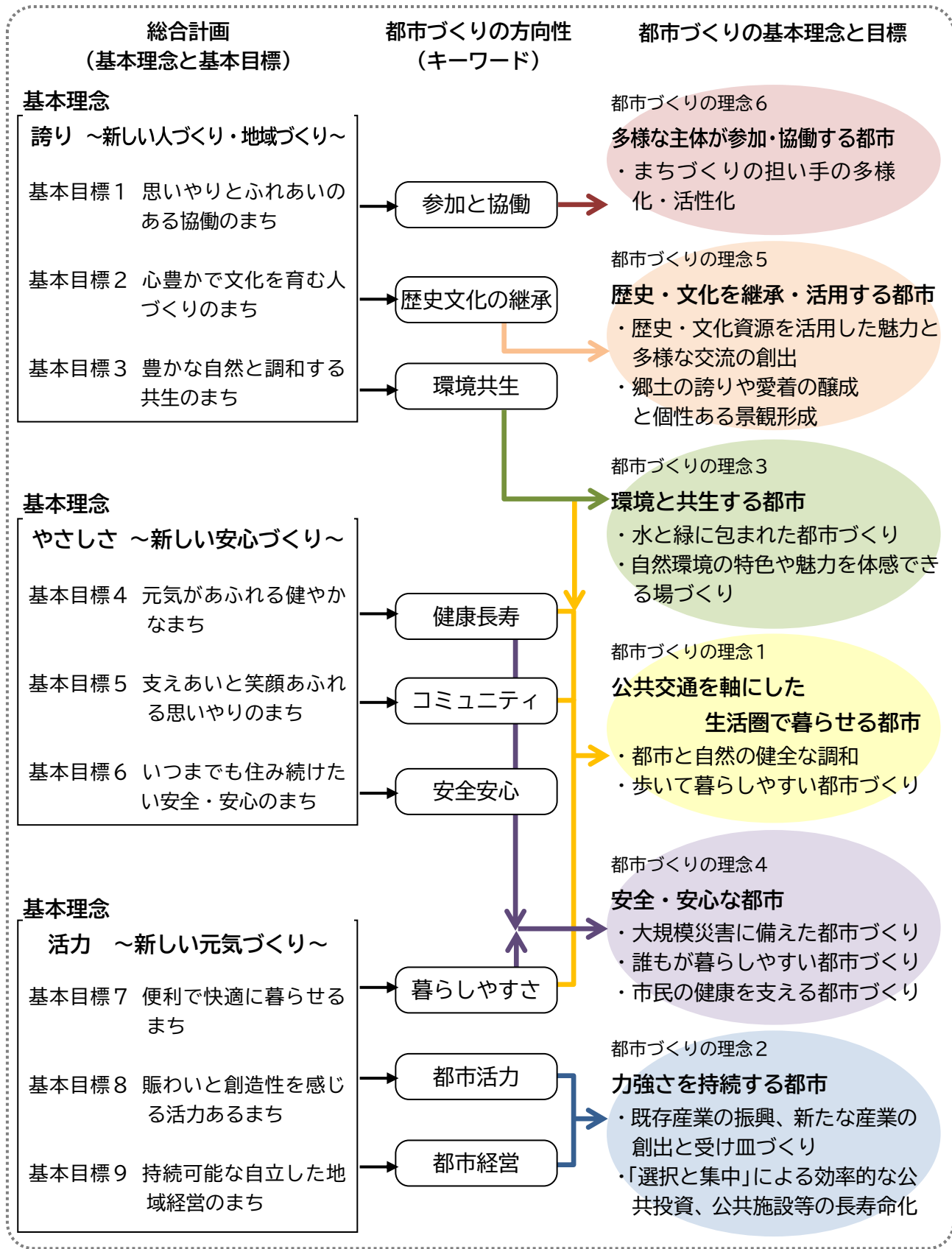


計画素案について

第1章 前計画の評価

前計画では、以下の6つの都市づくりの基本理念と、その基本理念を実現するための基本目標を掲げ、都市づくりを進めてきました。都市づくりの基本理念、基本目標に基づき定めた方針について進捗状況を確認し、課題を整理しました。



都市づくりの理念1 公共交通を軸にした生活圏で暮らせる都市

主な取組内容

都市づくりの目標1-1 都市と自然の健全な調和

- 立地適正化計画の策定
- 地区計画道路の整備による住宅・宅地の供給促進
- 市街化調整区域における既存コミュニティの維持・活性化策の実施(稲羽東小学校周辺)

都市づくりの目標1-2 歩いて暮らしやすい都市づくり

- 東部拠点及び新加納地区の市街地整備、土地区画整理事業の実施
- 西部拠点の新那加駅周辺におけるバリアフリー化
- 乗継拠点となる駅前広場整備(JR 蘇原駅前、名鉄新那加駅前)
- 定期的なふれあいバスのルートやダイヤの改正、チョイソコかかみがはら・チョイソコかわしま運行開始

<参考> 評価指標 (統計データ)

項目	基準値	実績値	進捗状況
市街化区域内の可住地人口密度(人/ha)	71.6 平成 25 年度	75.4 令和 4 年度	↑
市街化調整区域内の開発許可件数(件)	31 平成 28 年度	40 令和 5 年度	↓
公共交通沿線地域※の人口カバー率(%) ※公共交通沿線地域:鉄道駅から半径 800m圏内及びバス停・チョイソコかかみがはら停留所から半径 300m圏内の徒歩圏	—	90.4 令和 2 年度	—
ふれあいバス・チョイソコかかみがはらの年間利用者数(人)	199,249 平成 28 年度	256,903 令和5年度	↑

<参考> 評価指標 (市民満足度調査)

項目	基準値 平成 26 年度	実績値 令和 5 年度	進捗状況
日常的な買い物をする場所に不自由を感じない市民の割合 (%)	53.7	50.9	↓
ふれあいバス・チョイソコかかみがはらを利用しやすいと感じる市民の割合 (%)	15.6	24.2	↑
各務原市の道路は整備され、移動しやすいと感じる市民の割合 (%)	14.4	13.2	↓



整備前



整備後

地区計画道路の整備 (巾下1号 (市道那 1143 号線))



新那加駅南口駅前広場整備 (施工後)

■今後必要な取組

- ・市街化調整区域内の開発許可件数が増加傾向にあるため、無秩序な土地利用が進まないよう開発許可の適切な運用を行う必要があります。
- ・日常的な移動に不便を感じる市民割合が増加傾向にあるため、さらなる地域交通サービスの充実を検討する必要があります。
- ・新たな区画整理事業の立ち上げやウォーカブルなまちづくりの推進等により、良好な市街地の形成を図るとともに新鵜沼駅周辺の高度利用などさらなる土地の有効利用を検討する必要があります。

主な取組内容

都市づくりの目標2-1 既存産業の振興、新たな産業の創出と受け皿づくり

- 鵜沼西町地区、三井町地区の市街化編入による商業用地の確保
- 各務山地区の市街化編入による工業用地の確保

都市づくりの目標2-2 「選択と集中」による効率的な公共投資、公共施設等の長寿命化

- 都市計画道路((都)(仮称)新愛岐大橋、(都)岐阜鵜沼線等)の整備促進
- 公共施設等の計画的な修繕・更新による長寿命化の推進

＜参考＞評価指標（統計データ）

項目	基準値	実績値	進捗状況
年間製造品出荷額等(億円)	6,707 平成 26 年度	7,723 令和 5 年度	↑
都市計画道路の整備率(%)	73.0 平成 30 年度	73.1 令和 5 年度	↑
財政力指数	0.865 平成 26 年度	0.854 令和 5 年度	↓

＜参考＞評価指標（市民満足度調査）

項目	基準値	実績値	進捗状況
各務原市内で仕事を見つけやすいと感じる市民の割合 (%)	18.2 平成 26 年度	22.8 令和 5 年度	↑



開発前



開発後

鵜沼西町地区



整備前



整備後

各務山地区

■今後必要な取組

- ・新たな都市計画道路((仮称)新愛岐大橋・岐阜鵜沼線等)の完成を見据えた沿線地域や岐阜各務原インターチェンジ周辺における産業拠点の形成に向けた土地利用の検討が必要です。
- ・近年ほぼ横ばいで推移している財政力指数を維持しつつ、社会情勢の変化を見据えた、計画的な公共施設の整備、維持管理等を行う必要があります。

主な取組内容

都市づくりの目標3-1 水と緑に包まれた都市づくり

- 各務原市総合運動公園の再整備、街区公園の新設・再整備(計7箇所)
- 市街地の緑化(建物屋上・壁面や敷地の緑化促進、一定規模以上の建築・開発行為に対する緑化等)や道路・公園等の基盤施設に関する緑化計画の指導
- ごみを焼却した際に発生する飛灰や緑ごみの再資源化

都市づくりの目標3-2 自然環境の特色や魅力を体感できる場づくり

- 市民公園や学びの森の活用による公園の魅力発信
- 木曽川前渡南公園やサイクリングロードの整備による木曽川中流域の魅力向上

＜参考＞評価指標（統計データ）

項目	基準値	実績値	進捗状況
一人当たりの都市公園面積(m ² /人)	14.4 平成27年度	17.0 令和5年度	↑
都市公園において長寿命化、リニューアル整備をした累計公園数(箇所)	41 平成26年度	119 令和5年度	↑
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)	1,250 平成26年度	1,003 令和2年度	↑

＜参考＞評価指標（市民満足度調査）

項目	基準値 平成26年度	実績値 令和5年度	進捗状況
自然と調和した美しいまちなみが整っていると感じている市民の割合(%)	69.7	73.5	↑
身近な公園や道路などで再生が図られ、利用しやすくなったと感じる市民の割合(%)	53.1	44.6	↓
日常生活において環境問題を意識していると感じている市民の割合(%)	78.4	76.7	↓



学びの森で行われたマーケット日和



木曽川前渡南公園

■今後必要な取組

- ・身近な公園や道路などが利用しやすいと感じる市民が減少傾向にあることから、行政による自然環境や公園等の保全・整備だけでなく、民間活力の活用により魅力ある場づくりを推進する必要があります。
- ・日常生活において環境問題を意識していると感じている市民の割合が減少傾向にあることから、身近な居住環境における環境対策を通して環境意識への向上を図り、環境負荷の低減につながる取り組みを推進する必要があります。

主な取組内容

都市づくりの目標4-1 大規模災害に備えた都市づくり

- 土砂災害特別警戒区域の指定による無秩序な宅地開発等の抑制
- 防災備蓄倉庫の建設、防災ハンドブックの見直し
- 各務原市洪水ハザードマップの配布等による啓発活動の実施
- 市の普通河川(濃川等)の護岸修繕等の維持管理、転落防止柵の設置、雨水幹線や貯留施設等の公共下水道の整備による内水浸水への対策

都市づくりの目標4-2 誰もが暮らしやすい都市づくり

- ブロック塀の除去、建築物等耐震化促進事業等による地震対策の推進
- 交差点の防護柵や通学路のカラー舗装の実施による歩行者安全性の向上

都市づくりの目標4-3 市民の健康を支える都市づくり

- 都市計画道路や市内の主要な道路における歩道や自転車歩行者道等の整備

<参考> 評価指標 (統計データ)

項目	基準値	実績値	進捗状況
木造住宅耐震診断累計件数(件)	944 平成 26 年度	1,598 令和 5 年度	↑
年間人身事故発生件数(件)	726 平成 26 年度	318 令和 2 年度	↓
歩道バリアフリー化整備延長(m)	2,264 平成 28 年度	14,066 令和 5 年度	↑

<参考> 評価指標 (市民満足度調査)

項目	基準値 平成 26 年度	実績値 令和 5 年度	進捗状況
災害時の自分の「一次避難所」を知っている市民の割合 (%)	90.0	75.8	↓
各務原市は交通マナーが良いまちだと感じる市民の割合 (%)	42.1	42.5	↑
各務原市は治安が良いまちだと感じる市民の割合 (%)	61.0	63.0	↑
歩道を安心して歩くことができると感じる市民の割合 (%)	51.9	47.3	↓



市道那 422 号線



市道那 730 号線

通学路のカラー舗装



防災備蓄倉庫

■今後必要な取組

- ・一次避難所を知っている市民割合が減少傾向にあるため、災害に備えた啓発活動等防災・減災に対する総合的な取り組みの推進を図る必要があります。
- ・歩道等を安心して歩くことができると感じる市民割合が減少傾向にあるため、ウォーカブルなまちづくりの推進や地区計画道路、狭あい道路整備事業による道路整備の実施を推進していく必要があります。
- ・引き続き、緊急性や危険性の高い河川の改修や維持管理が必要です。

主な取組内容

都市づくりの目標5-1 歴史・文化資源を活用した魅力と多様な交流の創出

- かかみがはら航空宇宙博物館のリニューアル
- 中山道鵜沼宿及び村国座の歴史・文化をつなぐ沿道のカラー舗装や補修等の実施
- 民間団体主体のイベント開催などによる皆楽座、村国座等の主要な歴史資産の有効活用

都市づくりの目標5-2 郷土の誇りや愛着の醸成と個性ある景観形成

- 前渡西町景観計画(重点風景地区)の決定、各務山西部地区景観地区の決定、その他景観計画に基づく良好な景観の形成
- 優れた外観を有する景観重要建造物の保存
- ごんぼ積みにおけるまちなみ修景整備、カラー舗装、消防活動困難区域の解消

<参考> 評価指標（統計データ）

項目	基準値	実績値	進捗状況
文化芸術体験への児童等の累計参加者数(人)	341 令和2年度	2,859 令和5年度	↑
重点風景地区の指定(地区)	28 平成26年度	30 令和5年度	↑
年間観光入込客数(万人)	576 平成26年度	603 令和5年度	↑

<参考> 評価指標（市民満足度調査）

項目	基準値 平成26年度	実績値 令和5年度	進捗状況
芸術や文化に親しむ機会が充実していると感じる市民の割合(%)	37.3	27.3	↓



歴史資産の有効活用（村国座）



景観重要建造物
(茗荷屋梅田屋離れ)



中山道沿道整備

■今後必要な取組

- ・引き続き地区独自の景観計画に沿った、良好な景観形成に向けた規制・誘導を行う必要があります。
- ・歴史的、また木曽川景観の上でも重要な資源である城山の活用方針を引き続き検討する必要があります。
- ・芸術や文化に親しむ機会が充実していると感じる市民の割合が減少傾向にあるため、既存の歴史・文化資源を活かした魅力の向上や愛着の醸成を図る必要があります。

主な取組内容

都市づくりの目標6-1 まちづくりの担い手の多様化・活性化

- 新たな担い手の育成を目的とする担い手育成支援事業の実施
- 市民活動団体による災害訓練事業やまちおこし事業に対するまちづくり活動助成金交付
- 各施策・事業の実施における、ボランティア団体やまちづくり団体等との協働の推進
- パークレンジャーによる道路、河川や公園、広場などの緑化及び清掃活動の実施

＜参考＞評価指標（統計データ）

項目	基準値	実績値	進捗状況
まちづくり活動助成金交付累計事業数(事業)	23 事業 平成 26 年度	134 事業 令和 5 年度	↑

＜参考＞評価指標（市民満足度調査）

項目	基準値 平成 26 年度	実績値 令和 5 年度	進捗状況
市民のアイデアや意見が市政に反映されていると感じる市民の割合（％）	18.4	17.0	↓
まちづくり活動に参加したいと感じている市民の割合（％）	33.0	31.5	↓
地域の活動やボランティア活動に参加する青少年が多くなったと感じる市民の割合（％）	13.0	6.0	↓



市民活動団体による災害訓練事業



環境美化活動

■今後必要な取組

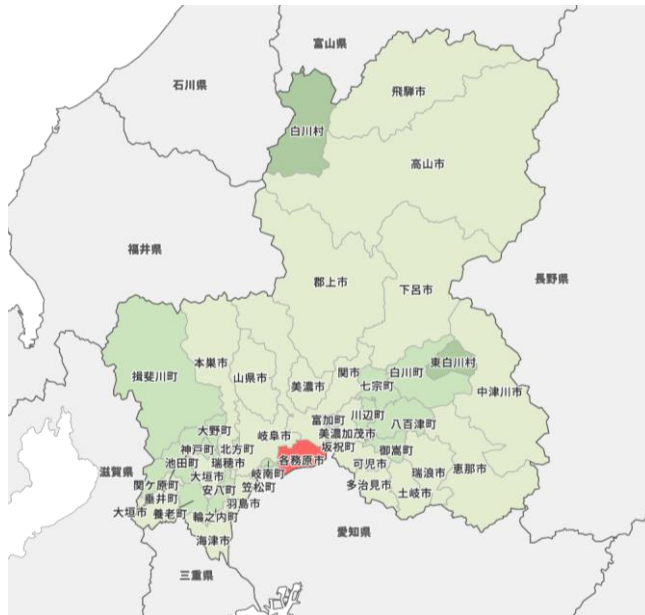
- ・市民のアイデア、意見が市政に反映されていると感じる市民の割合やまちづくり活動に参加したいと感じている市民の割合が減少傾向にあるため、まちづくり活動に参加したいと感じることができる活動内容の検討や機会の充実を行っていく必要があります。
- ・地域の活動やボランティア活動に参加する青少年が多くなったと感じる市民の割合が減少傾向にあることも踏まえ、担い手の確保を図るための取組を検討していく必要があります。

第2章 各務原市の現状課題の整理

1. 各務原市の概況

(1) 市の位置

- ・本市は、濃尾平野の北部、岐阜県の南部に位置しています。また、中京都市圏の中心名古屋へ 30km、岐阜市へ 8km 圏内に位置し、東海北陸自動車道・岐阜各務原インターチェンジを介して名古屋まで 30 分とアクセスに優れています。
- ・市域中央を東西に J R 高山線、名鉄各務原線、国道 21 号が、南北に主要地方道江南関線が通り、機関交通網を形成しています。
- ・本市の大きさは、東西約 15km、南北約 10km、面積は 87.81 km²となっています。



(2) 市の成り立ち

- ・本市は、古くは木曽川を横断する交通の要所として人々が集まり、東山道、中山道といった街道沿いに宿が置かれていました。幕末の頃には、各務原台地が大砲場として利用され、大正時代以降は各務原飛行場の整備、鉄道の整備、岐阜高等農林学校の開校と発展していきました。飛行場に関連する工場が立地し、従業員の社宅が立地し、人口は急激に増加しました。
- ・昭和 38 年（1963 年）に那加町、鷺沼町、蘇原町、稲羽町の 4 町が統合し、各務原市が誕生しました。その後、平成 16 年（2004 年）に川島町との合併により、現各務原市が誕生しました。

(3) 地勢・地形

- ・本市の地形的な特徴として、市南西部においては境川低地や木曽川周辺の低地が広がっています。
- ・市中央部においては各務原台地となっており、東西にわたって平坦な地形が広がっています。市北東部においては美濃山地となっており、急峻な地形となっています。



濃尾平野と市の位置



市の地形

2. 基本的現況

※◎本市の強み ●本市の弱み

(1) 人口動態

①年齢3区分別人口

- 年齢3区分別人口割合の推移を見ると、15歳未満の年少人口、15歳～64歳の生産年齢人口は減少、65歳以上の老年人口は増加しており、少子高齢化が進んでいます。また、将来推計人口によると、今後も少子高齢化が進んでいく見通しとなっています。
- 出生・死亡による自然増減、転入・転出による社会増減ともに平成22年以降減少に転じています。
- 鉄道駅沿線は高齢化率が比較的低い一方、郊外の大規模住宅団地では、高齢化率が高い傾向が見られます。

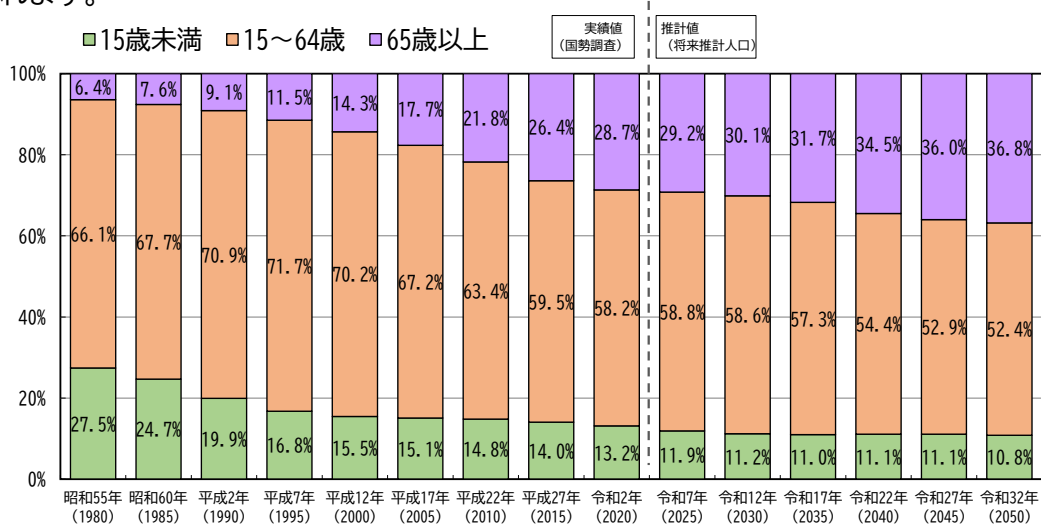


図 年齢3区分別人口割合の推移と将来推計

資料：国勢調査

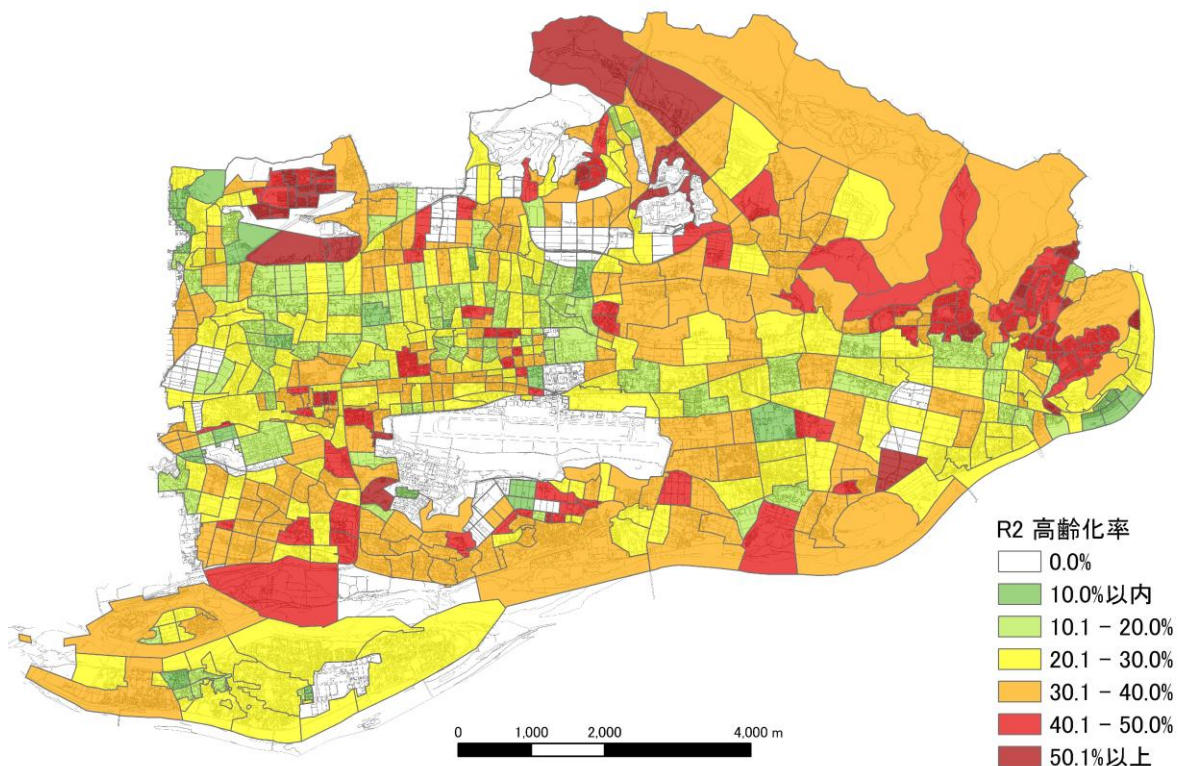


図 高齢化率の分布

資料：国勢調査

②可住地人口

◎市街化区域の内、西部に位置する鉄道駅及び鵜沼駅周辺と郊外の大規模住宅団地を中心に人口が
集積しています。また、市街化調整区域においても一定の人口が集積している既存集落が存在し
ています。

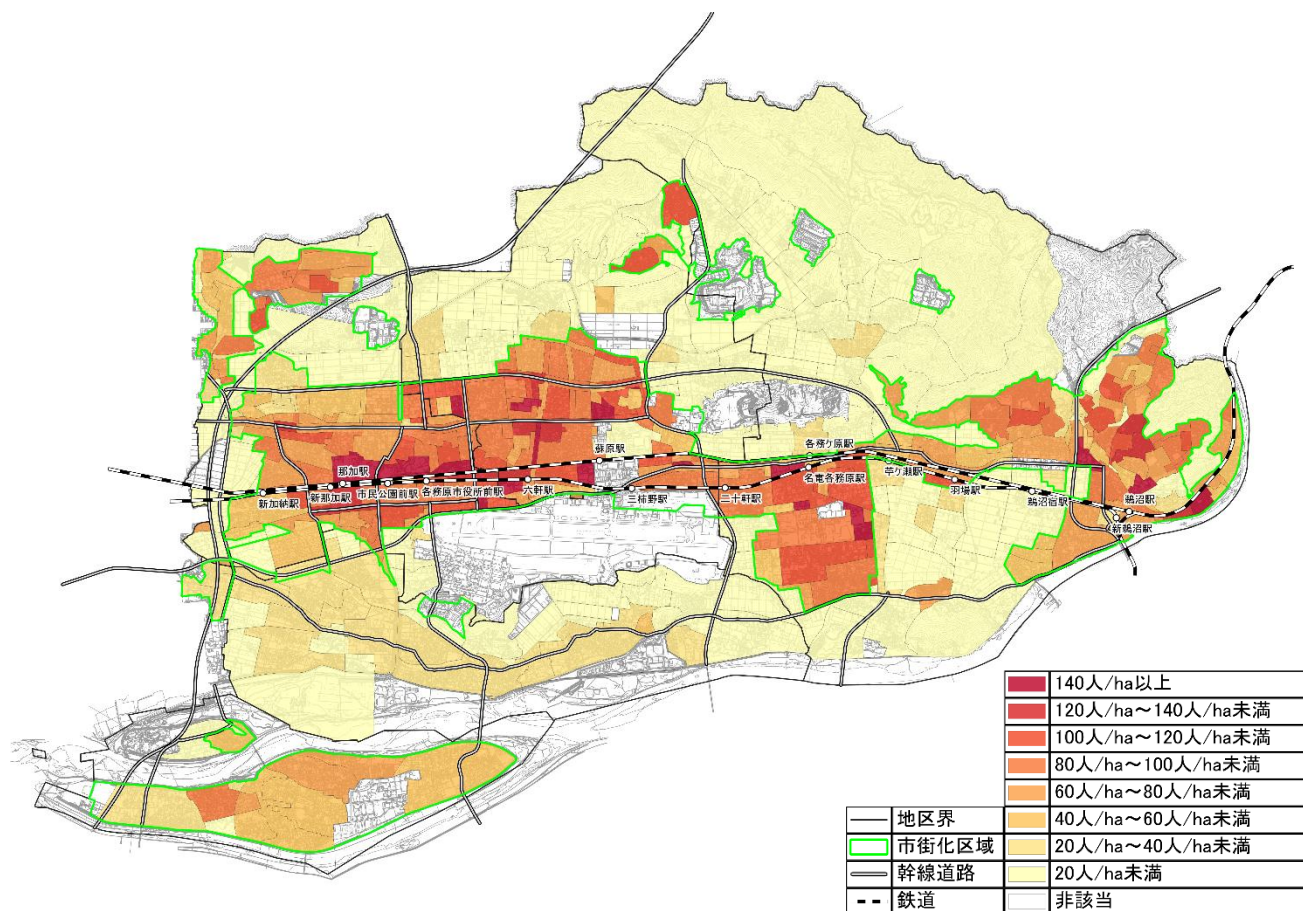


図 可住地人口密度（令和4年度）

資料：各務原市都市計画基礎調査

③人口増減

- 鵜沼地区の鉄道駅周辺や新たに土地区画整理を行った桜木町で人口が増加する一方、郊外の大規模住宅団地等では、高齢化率が高く、大きく人口が減少しています。
- ◎人口増減を市街化区域、市街化調整区域ごとに見ると、市街化区域の人口が緩やかに増加する一方、市街化調整区域の人口は減少しており、集約型のまちづくりが進みつつあります。
- ただし、市街化調整区域の人口減少は、顕著となっています。

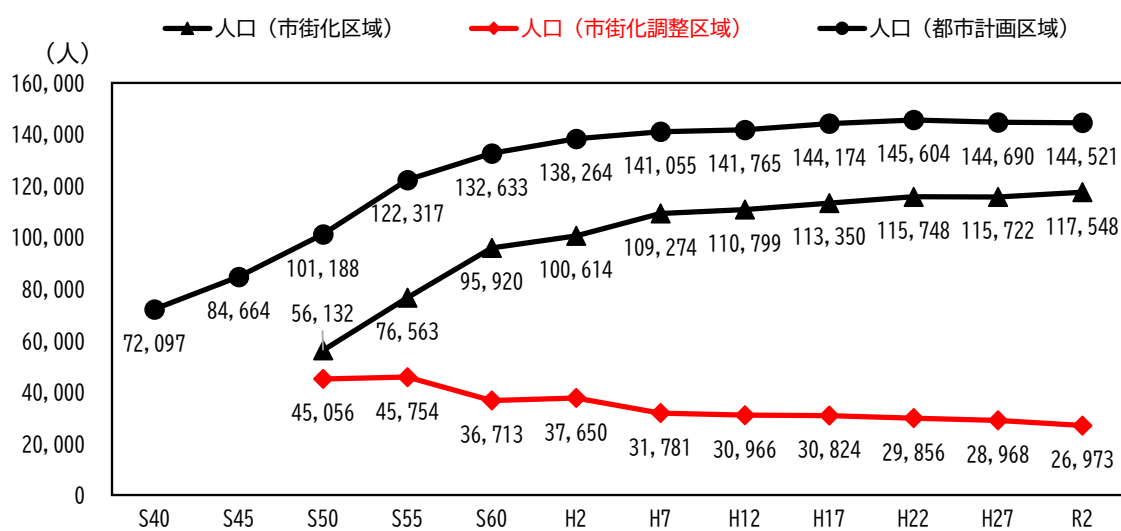
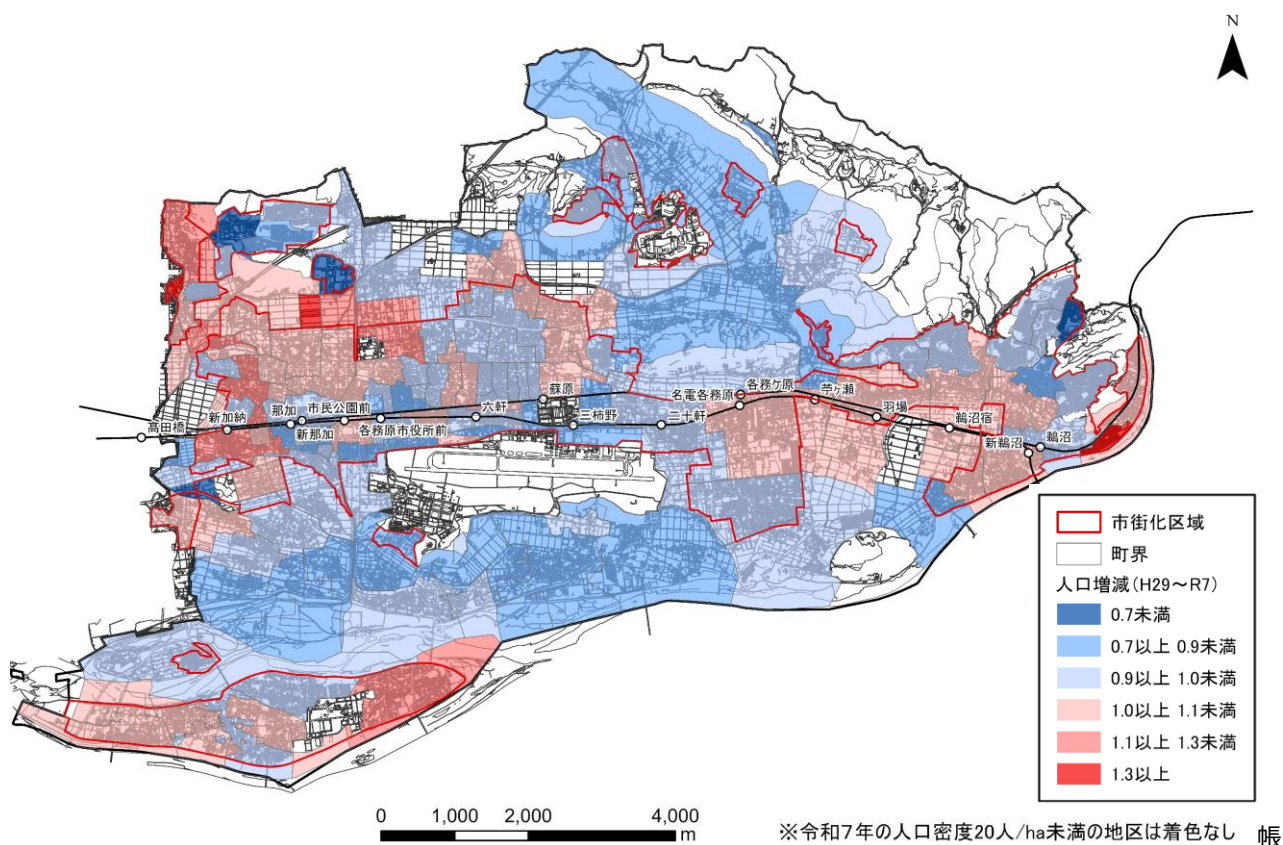


図 人口の推移

資料：各務原市都市計画基礎調査

(2) 産業

①工業

◎航空宇宙産業をはじめとする製造業が集積しており、製造品出荷額等が県内 No. 1 のものづくりの街です。出荷額は近年ほぼ横ばいとなっています。

◎製造品出荷額の内訳を見ると、「輸送用機械器具製造業」が最も高く、令和2年は全体の 56.6% を占めています。

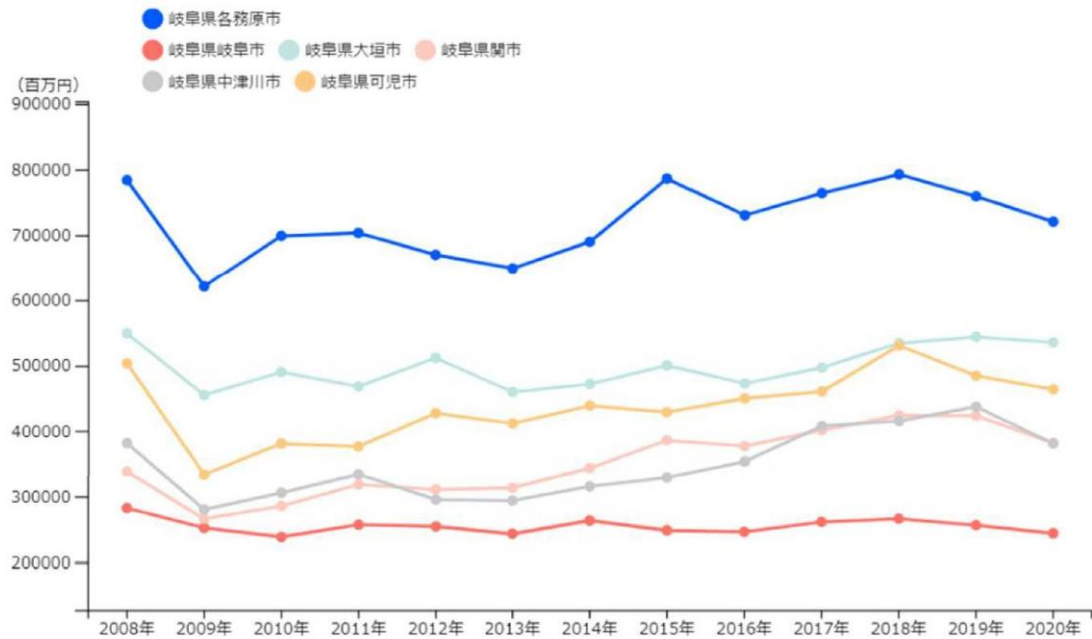


図 製造品出荷額等

資料：経済産業省「工業統計調査」
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

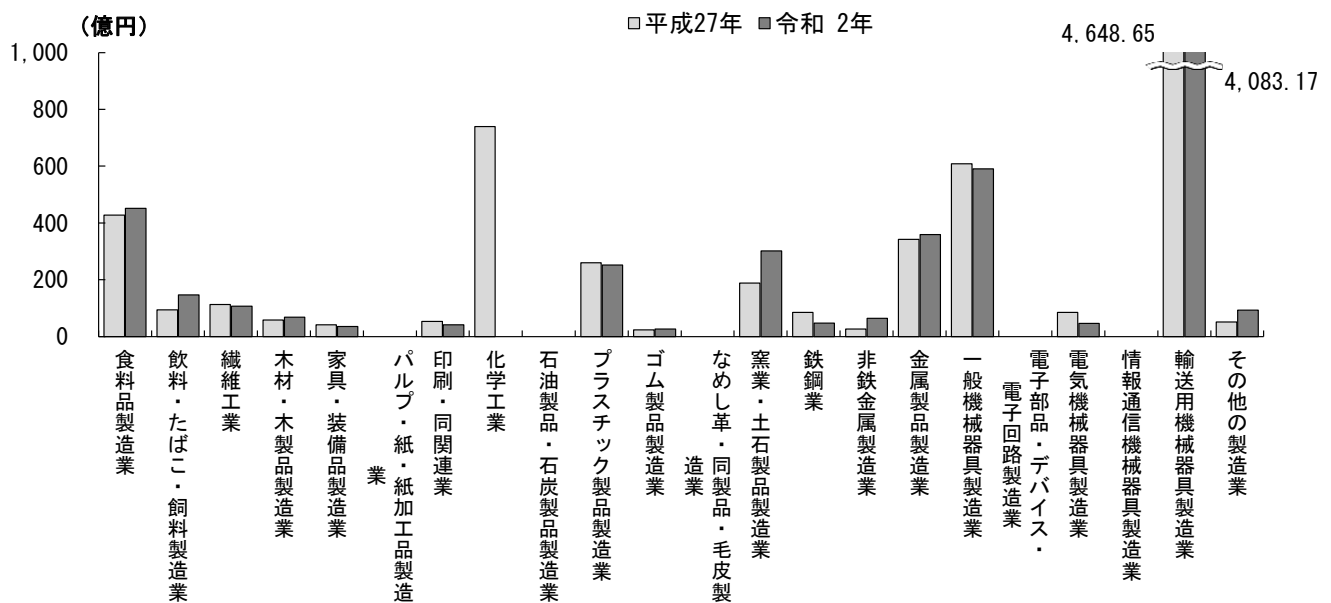


図 区分別の製造品出荷額等

資料：各務原市都市計画基礎調査

②商業

◎小売吸引力指数が 1.00 以上の都市であり、魅力ある商業の集積が図られているといえます。各務原市は、1.13 であり、近隣市町や県内の人口規模の大きい自治体よりも高い数値となっています。

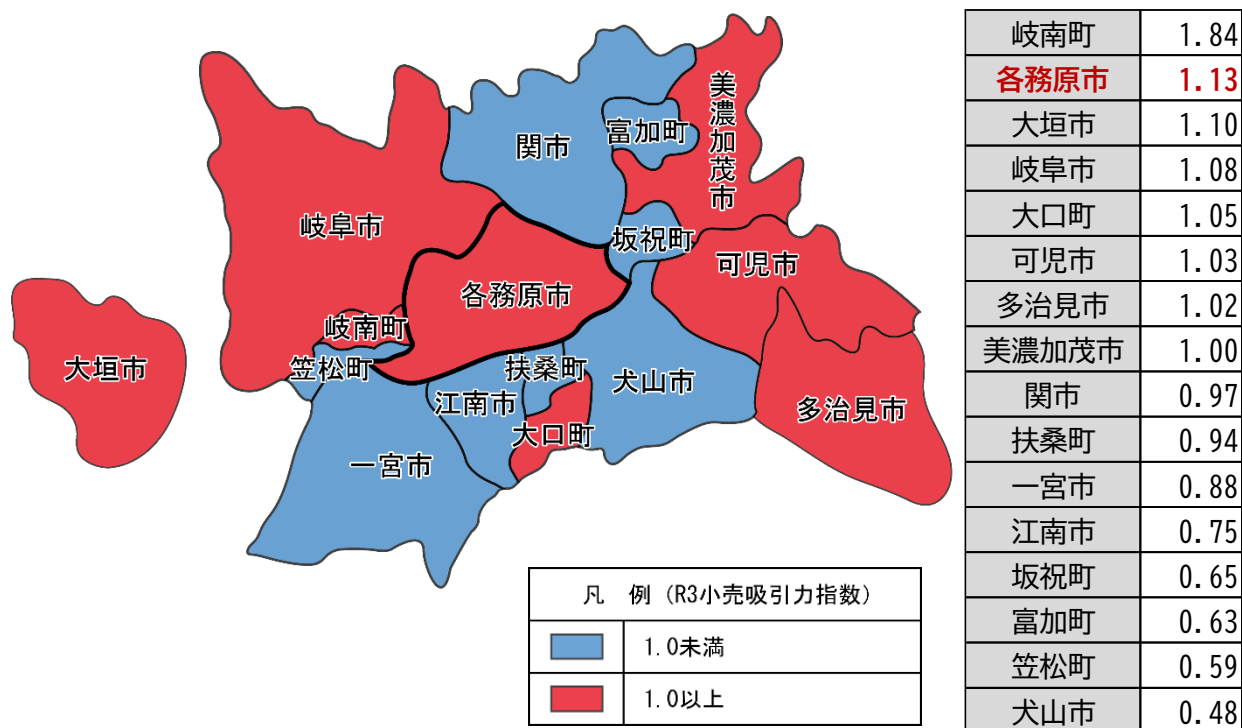


図 小売吸引力指数の比較（令和3年）

資料：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

※小売吸引力指数

各市町人口1人当り販売額を県の人口1人当り販売額で除した値。地域が買い物客を引き付ける力を表す指標で、指数が1.0以上の場合、買物客を外部から引き付け、1.0未満の場合は外部に流出していると見ることができる。

③農業

●農業産出額は、減少傾向にあり、平成2年と令和2年を比較すると半分以上となっているが、平成27年から令和2年にかけては増加しています。

◎経営耕地規模の推移を見ると、0.3～0.5ha未満の農家が減少し、2.0ha以上の農家が増加しており、農地の集約化が進んでいます。

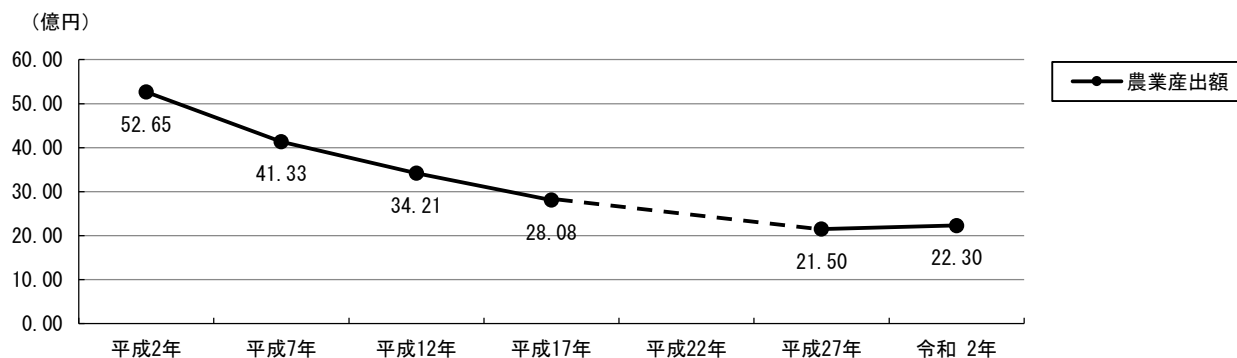


図 農業産出額の推移

資料：各務原市都市計画基礎調査

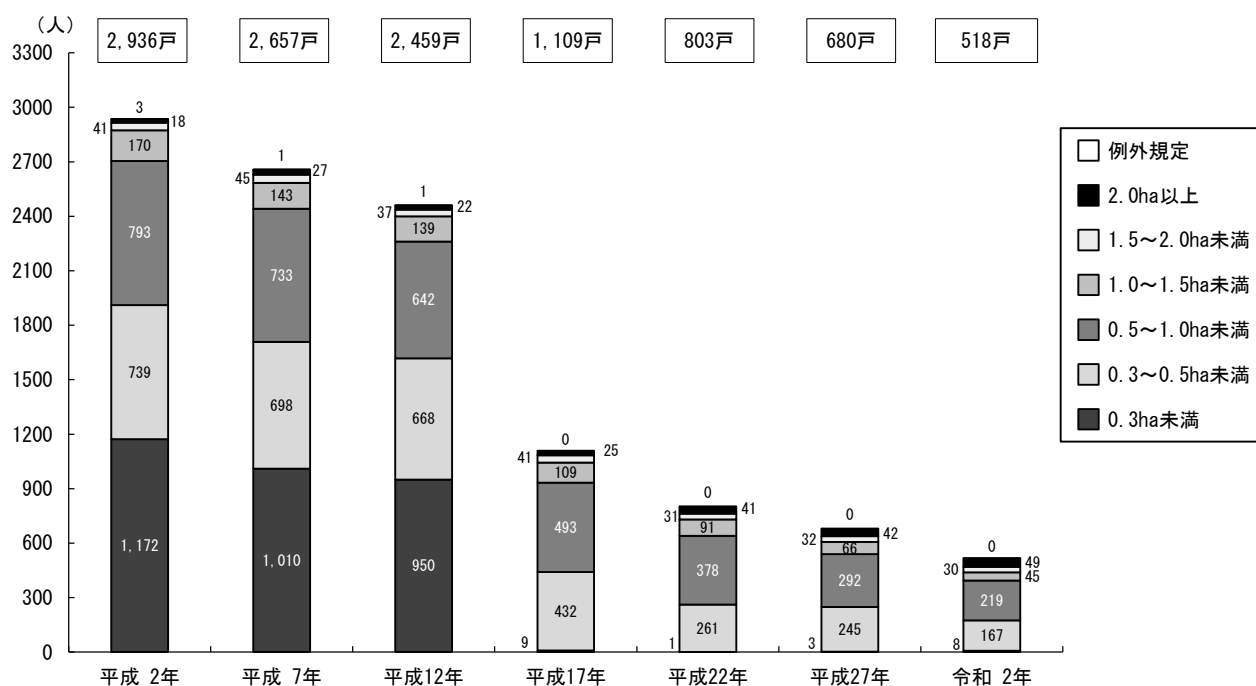
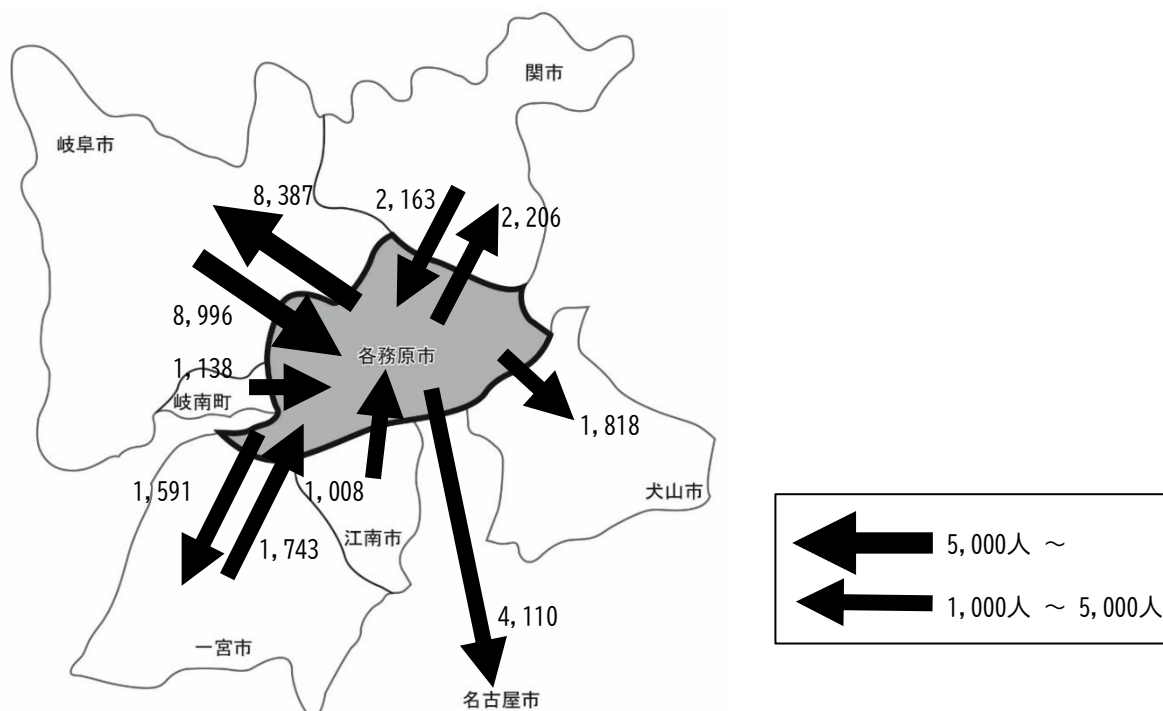


図 経営耕地規模の推移

資料：各務原市都市計画基礎調査

④移動動態

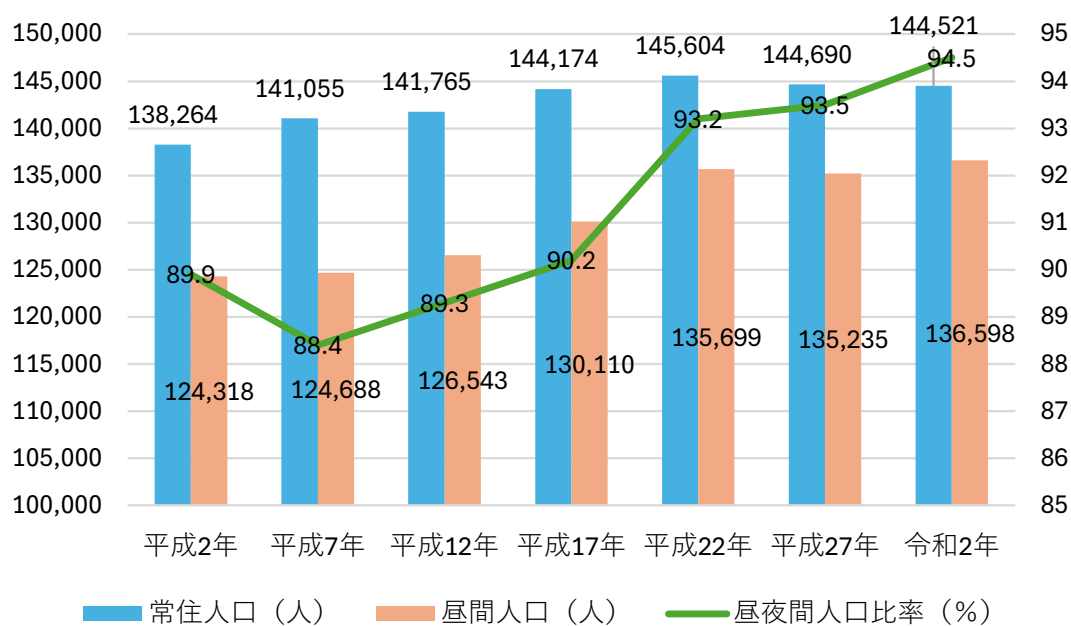
- 通勤の流動を見ると、流出人口は 34,071 人、流入人口は 26,148 人と流出超過となっています。
- 昼夜間人口比率を見ても 100 に満たないことからベッドタウンとしての一面がありますが、平成 7 年以降昼夜間人口は上昇し続けています。



※流入・流出人口は「令和 2 年国勢調査」による。
 ※流入・流出人口は、それぞれにおける上位 5 市町村の数値のみ抜粋。

資料：国勢調査

図 通勤の状況



※平成 2 年～令和 2 年の常住人口、昼間人口は「国勢調査」による。
 ※昼夜間人口比率 = (昼間人口 ÷ 常住人口) × 100

図 昼夜間人口比率の推移

資料：国勢調査

3. 土地利用

(1) 市街地形成の変遷

◎市中心部を東西に貫く鉄道、国道沿いに市街化区域を設定し、交通の利便性を生かした市街地の形成を行ってきました。高度経済成長期以降には、急激な人口増加に対応し、郊外に向けて段階的に市街化区域を拡大しましたが、平成 22 年以降は住居系の市街化編入は行っていません。

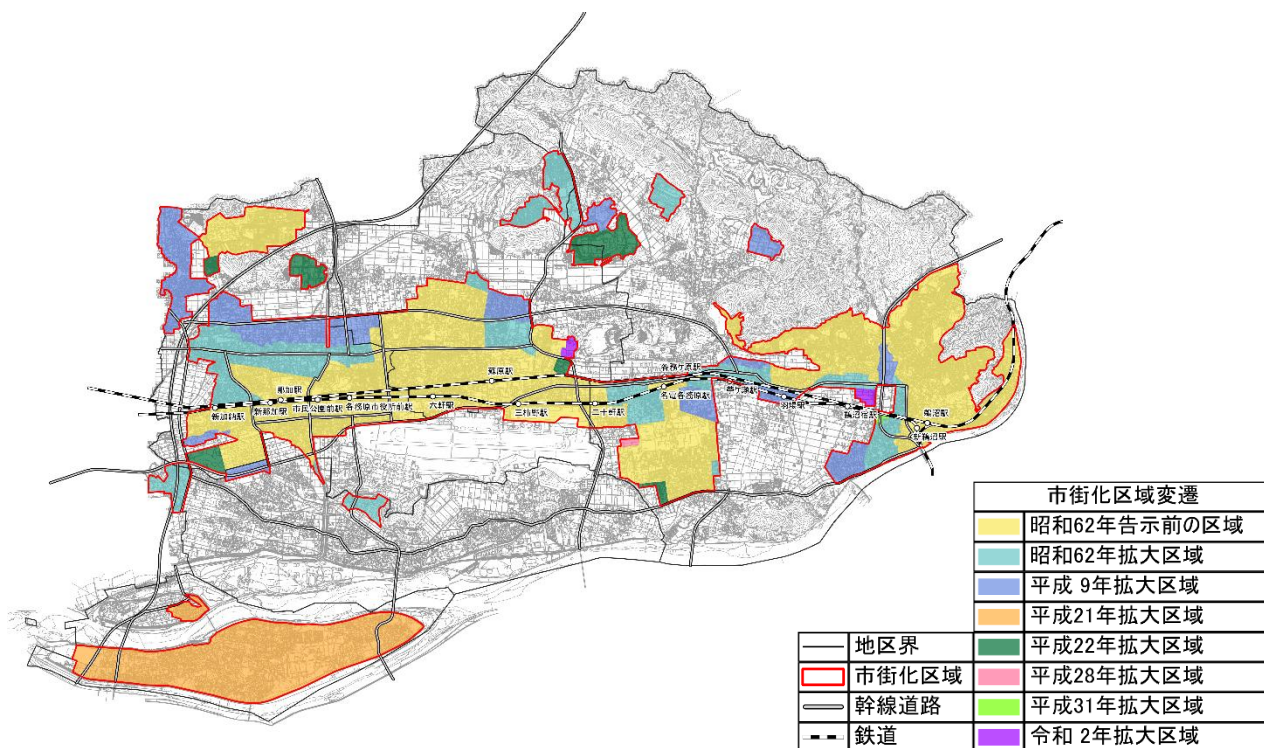


図 市街化区域指定の変遷

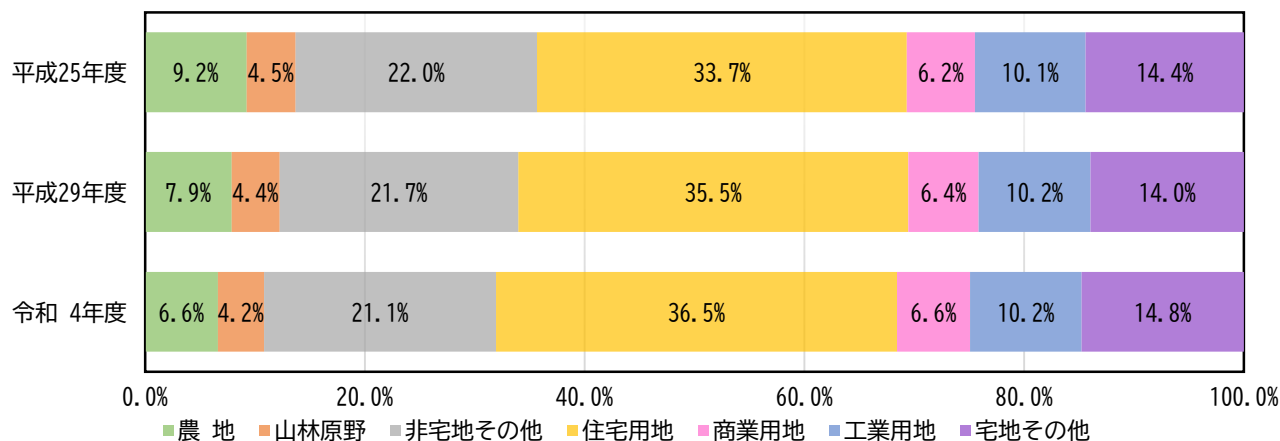
資料：各務原市都市計画基礎調査

(2) 土地利用の現況

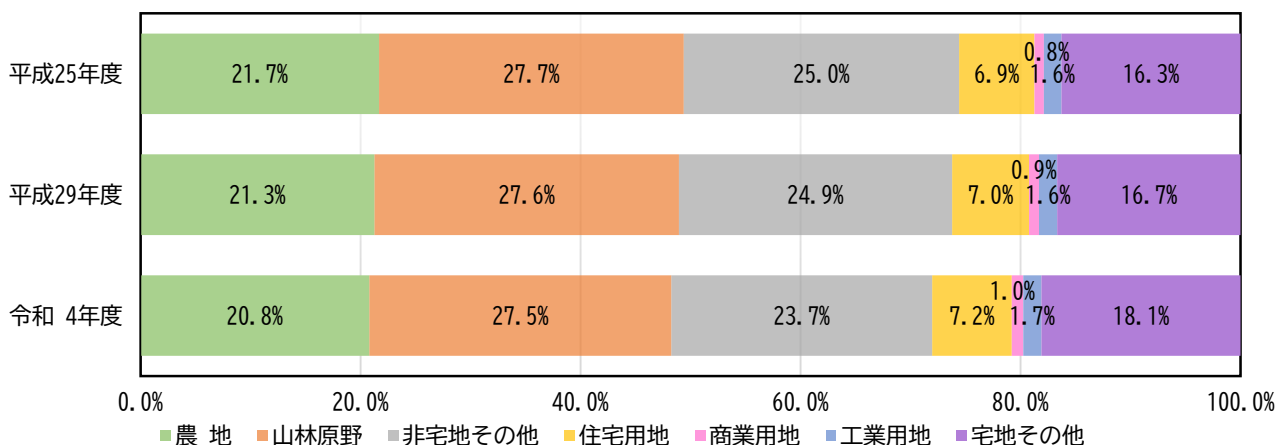
◎市街化区域の都市的土地利用の割合は、令和4年時点で86.6%であり、概ね市街化されています。

●市街化調整区域における農地の減少は、開発による宅地化が進んでいることや、太陽光パネル(宅地その他)が設置されたこと等が挙げられます。

■市街化区域



■市街化調整区域



■都市計画区域

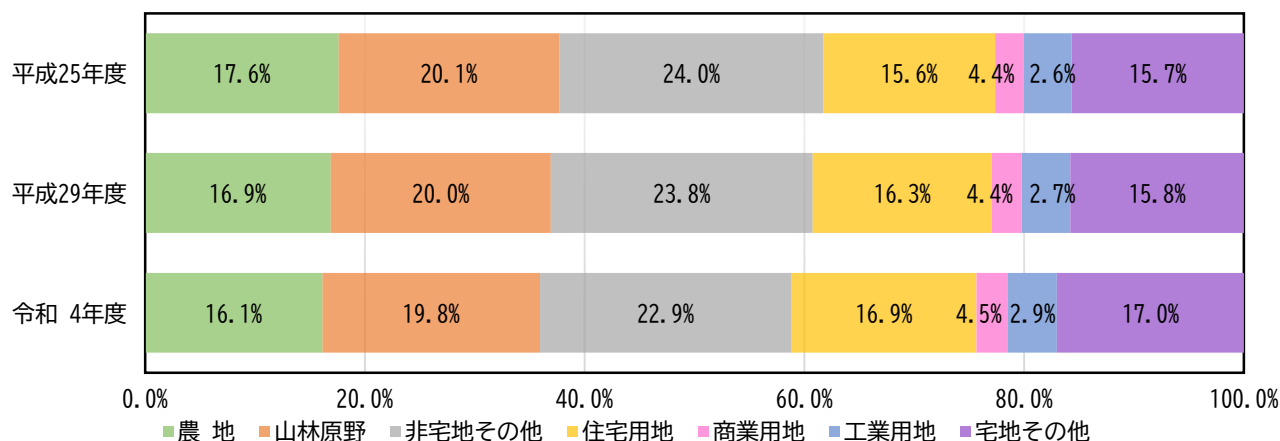


図 土地利用の推移(宅地率)

資料：各務原市都市計画基礎調査

(3) 未利用地の状況

- 都市的土地利用の低未利用地面積のうち、50%以上を平面駐車場が占めており、那加駅・新那加駅周辺や新鵜沼駅周辺など、鉄道駅周辺に多く見られます。また、郊外の大規模住宅団地周辺に山林が見られるほか、那加地区の地区計画に指定されている那加地区の縁辺部に農地（田・畑）が見られます。

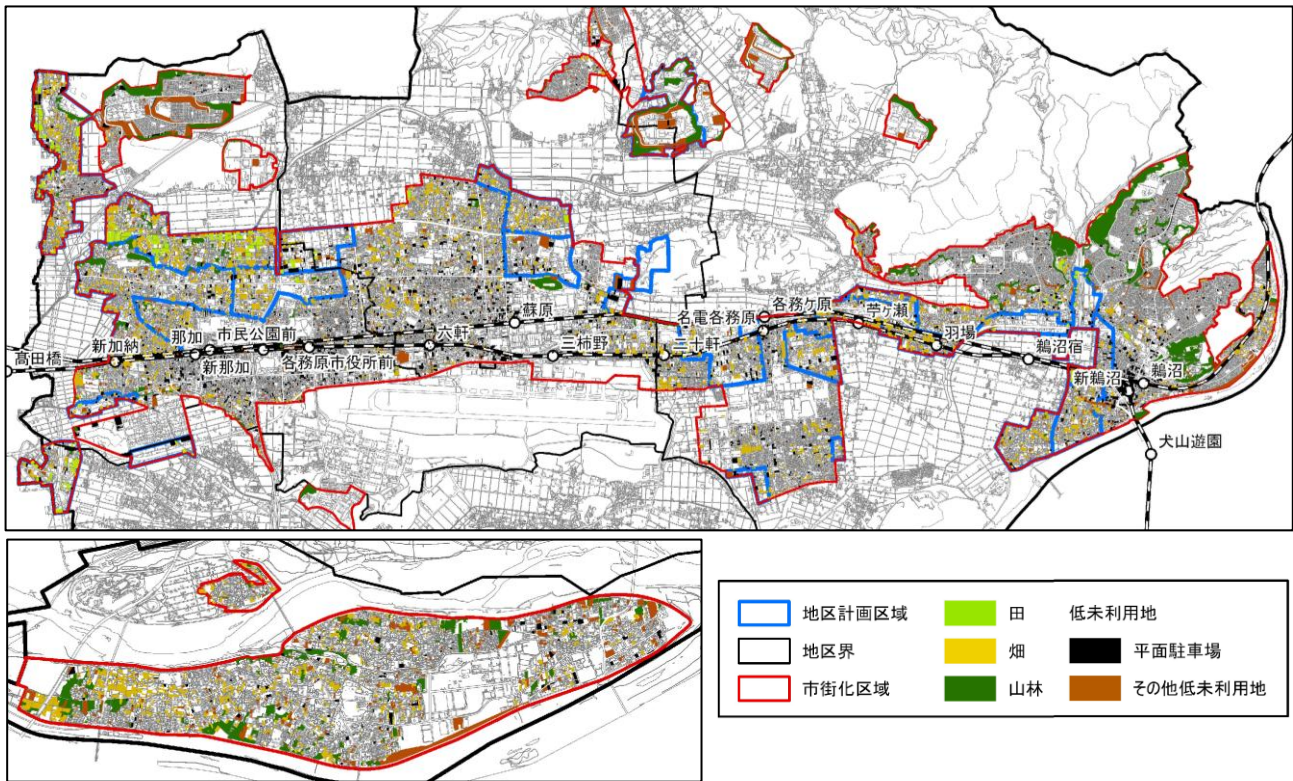


図 市街化区域内の低未利用地の分布

資料：各務原市都市計画基礎調査

●工業地域及び工業専用地域内には、まとまりのある一団の低未利用地はありません。

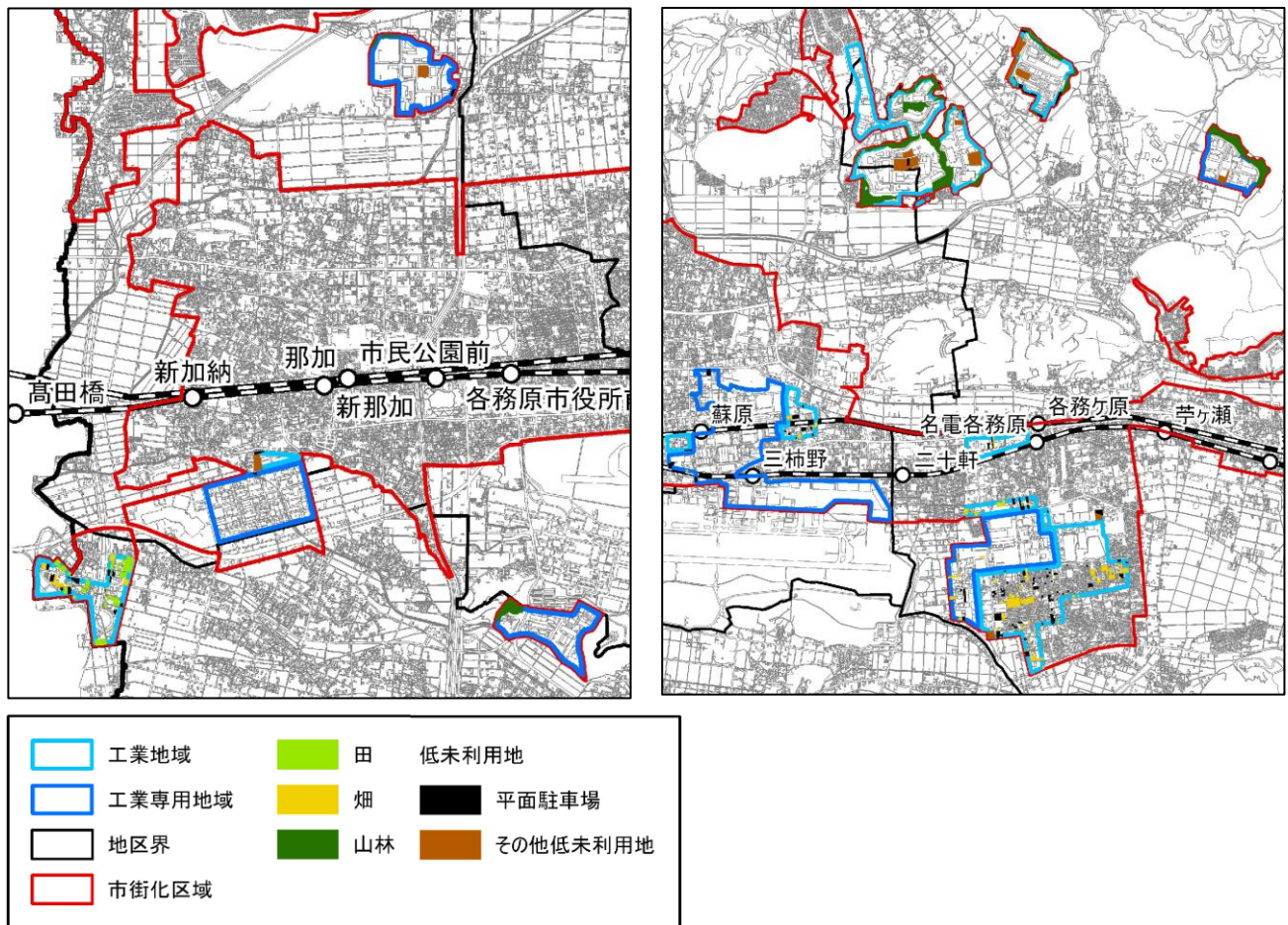


図 工業系用途地域内の低未利用地の分布

資料：各務原市都市計画基礎調査

(4) 開発許可の運用状況

- 市街化調整区域における開発許可の一つである分家住宅の開発を中心に、市街化調整区域の宅地化が進行しています。
- 鉄道駅周辺では、市街化調整区域でありながら、生活利便性が高いため、住宅のほか商業、公益施設用地の開発が行われ、無秩序な土地利用が進行しつつあります。

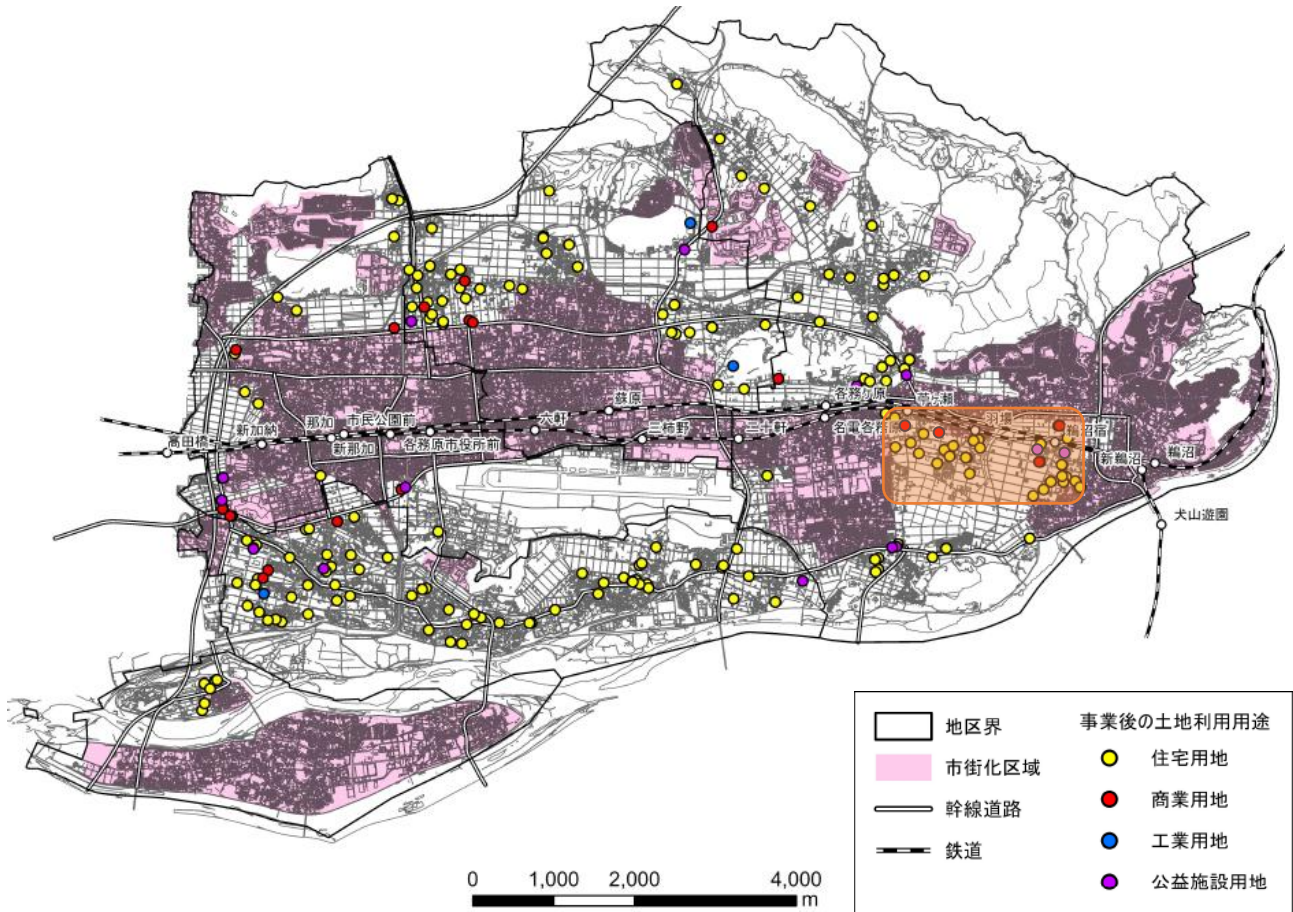


図 宅地開発状況

資料：各務原市都市計画基礎調査

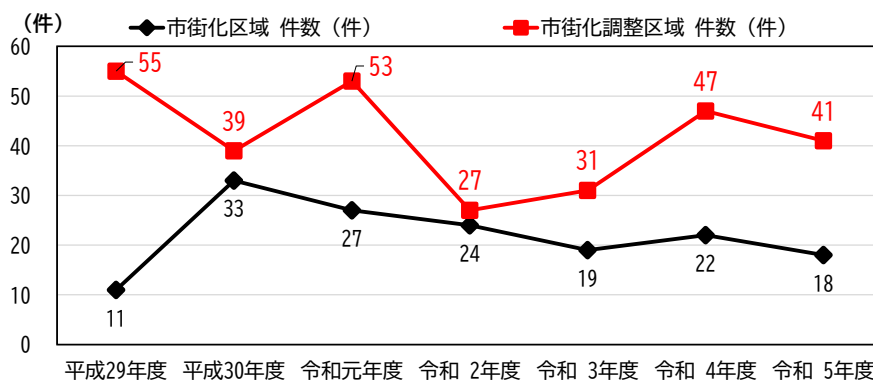


図 宅地開発事業の推移

資料：各務原市都市計画基礎調査

1 道路

(1) 渋滞発生状況

- 国道 21 号では、那加緑町 4 丁目交差点、金属団地前～三井町交差点、三ツ池町～各務原町交差点において渋滞が多発しています。
- 国道 21 号以外では、市街化区域内では県道 27 号春日井各務原線鵜沼東町～犬山橋北交差点、「那加地区」の不動丘交差点で渋滞が多発しています。
- 市街化調整区域では、「稲羽地区」の県道 17 号江南関線と県道 95 号芋島鵜沼線が交差する前渡東町 7 丁目交差点で渋滞が多発しています。

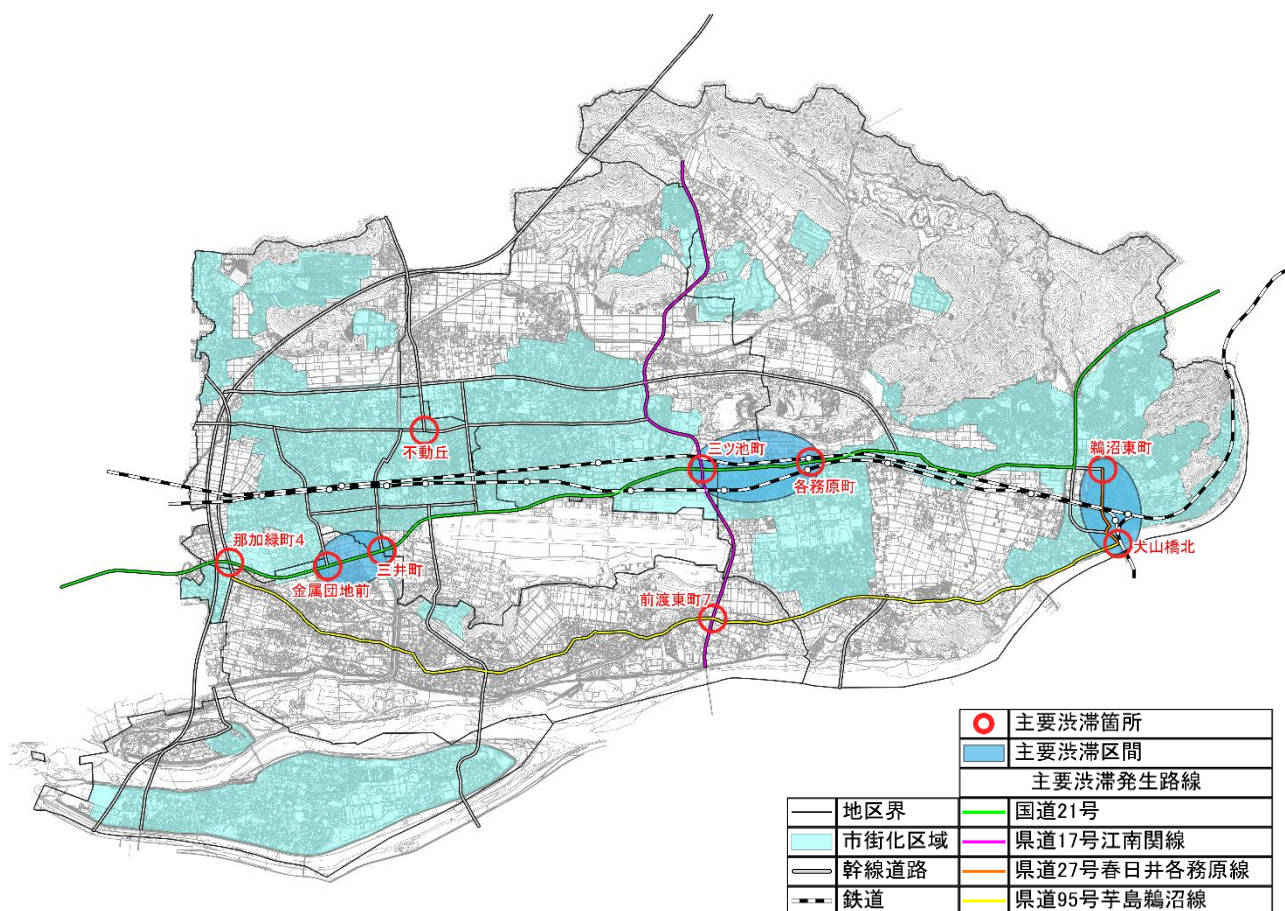


図 主要渋滞発生箇所

資料：各務原市都市計画基礎調査

(2) 都市計画道路整備

◎本市における都市計画道路の整備率は、約 73.1%（令和6年4月時点）となっており、未整備区間のほとんどが地域間をアクセスする幹線道路となっています。

◎愛知県とを結ぶ新たな道路ネットワークとなる（仮称）新愛岐大橋の建設や渋滞対策、緊急輸送道路としての役割、沿線の賑わい創出等の効果が期待される岐阜鵜沼線が事業化されました。

●旧集落地内等には緊急車両等の円滑な通行が困難な狭あい道路（2～3m程度）が存在します。

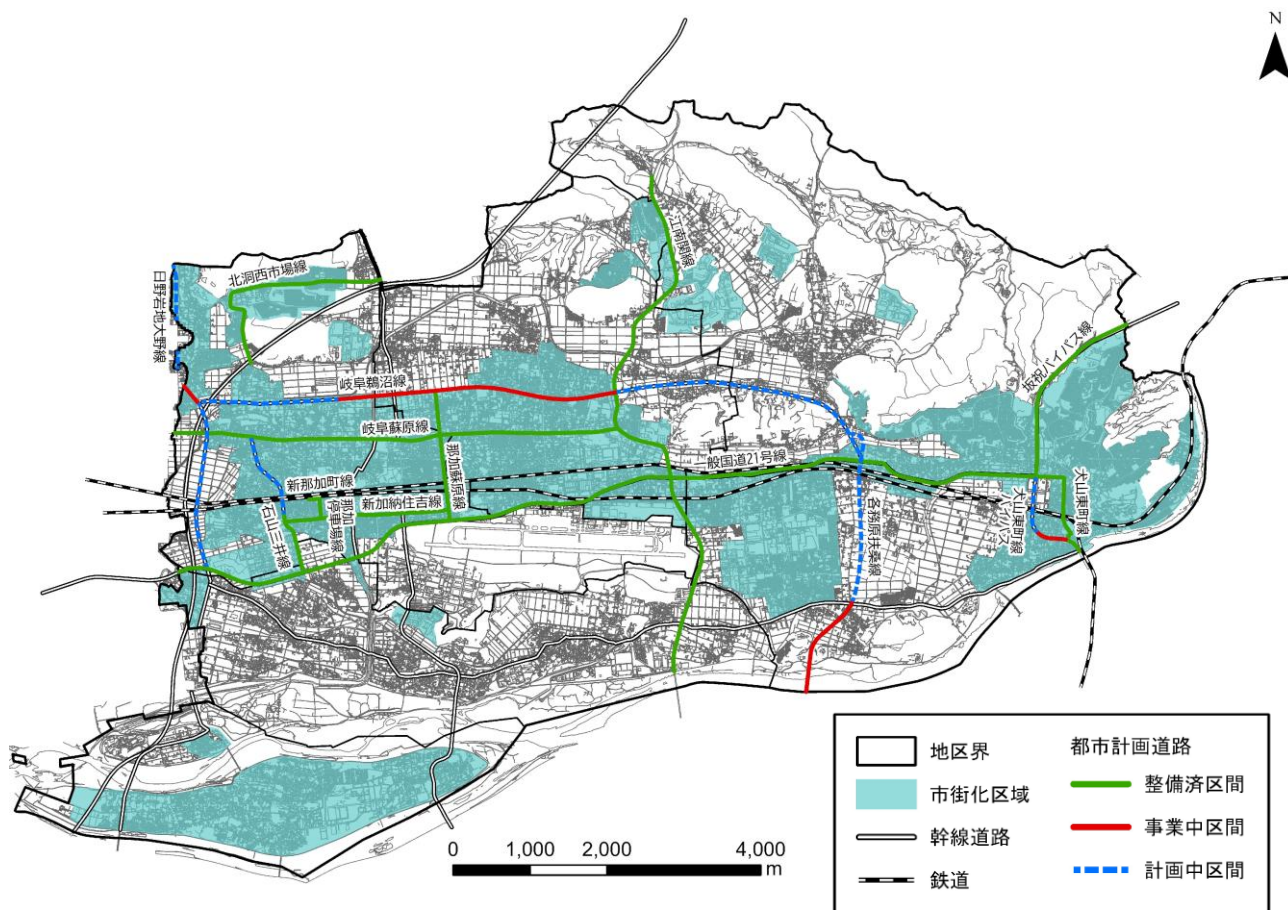


図 都市計画道路の整備状況

資料：各務原市資料

2 公共交通

◎デマンド型交通「チョイソコかかみがはら」、「チョイソコかわしま」が運行開始したことにより、鉄道駅・バス停から離れた地域含め、ほぼ全域をカバーしています。

種別	概要
鉄道	・ JR 高山本線及び名鉄各務原線・犬山線が市中央を東西 ・ JR、名鉄合わせて 16 の鉄道駅が存在し、当市公共交通の軸として機能
民間路線バス	・ 市域を跨いで運行する尾崎団地線、倉知線、快速イオンモール各務原線、笠松川島線、一宮・川島線、木曽川線が鉄道から距離のある地域を運行 ・ 市内の住宅団地や工業団地、商業施設、病院と鉄道駅等を繋ぐ、イオンモール各務原線、緑苑八木山線が運行 ・ 高速八幡線等の高速バスは、名鉄バスセンター・名鉄岐阜駅～高速各務原バス停～郡上・高山・金沢・高岡等を運行
乗用タクシー	・ 市内には、タクシー事業者 5 社の営業所があり、市域全体で個人単位を輸送 ・ 鉄道やバスの運行していない時間帯をカバー ・ 新鵜沼駅や那加駅等、主要な鉄道駅では、乗用タクシーが常駐
ふれあいバス	・ 地区ごとに路線を設定し、鉄道や路線バスを補完する生活路線として運行（鵜沼線、那加線、稲羽西線、稲羽東線、川島線、蘇原線、東西線、東西線朝夕便の 8 路線）
チョイソコかかみがはら・チョイソコかわしま	・ ふれあいバスが走行できない鵜沼南地区や川島地区、稲羽地区の一部で、AI を活用したデマンド交通「チョイソコかかみがはら」と「チョイソコかわしま」を運行

表 地域公共交通の種別及び概要

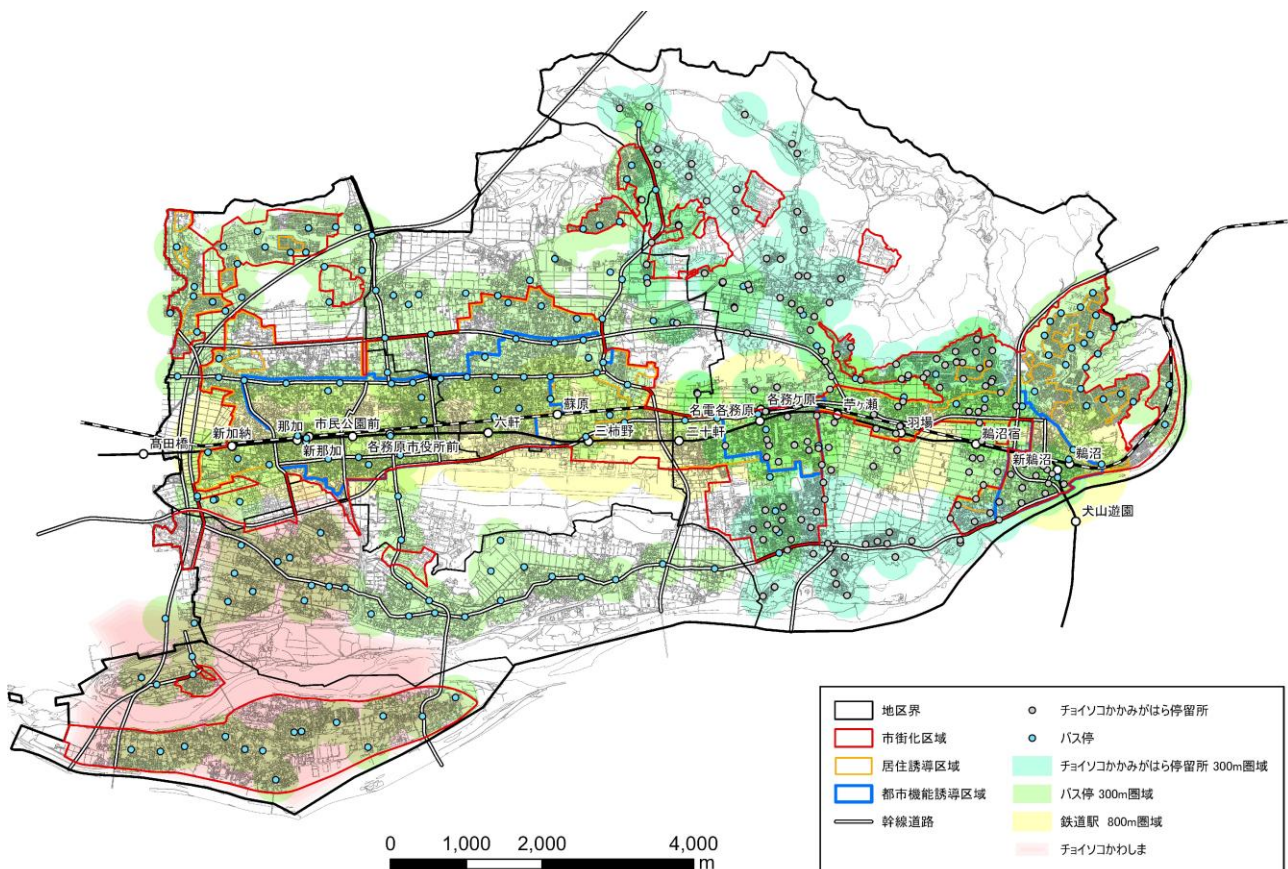


図 公共交通沿線地域

資料：各務原市資料

(1) バス

◎ふれあいバスの利用者数は、新型コロナウイルスの影響で令和2年度に激減したが、令和2年度以降は再び増加に転じています。

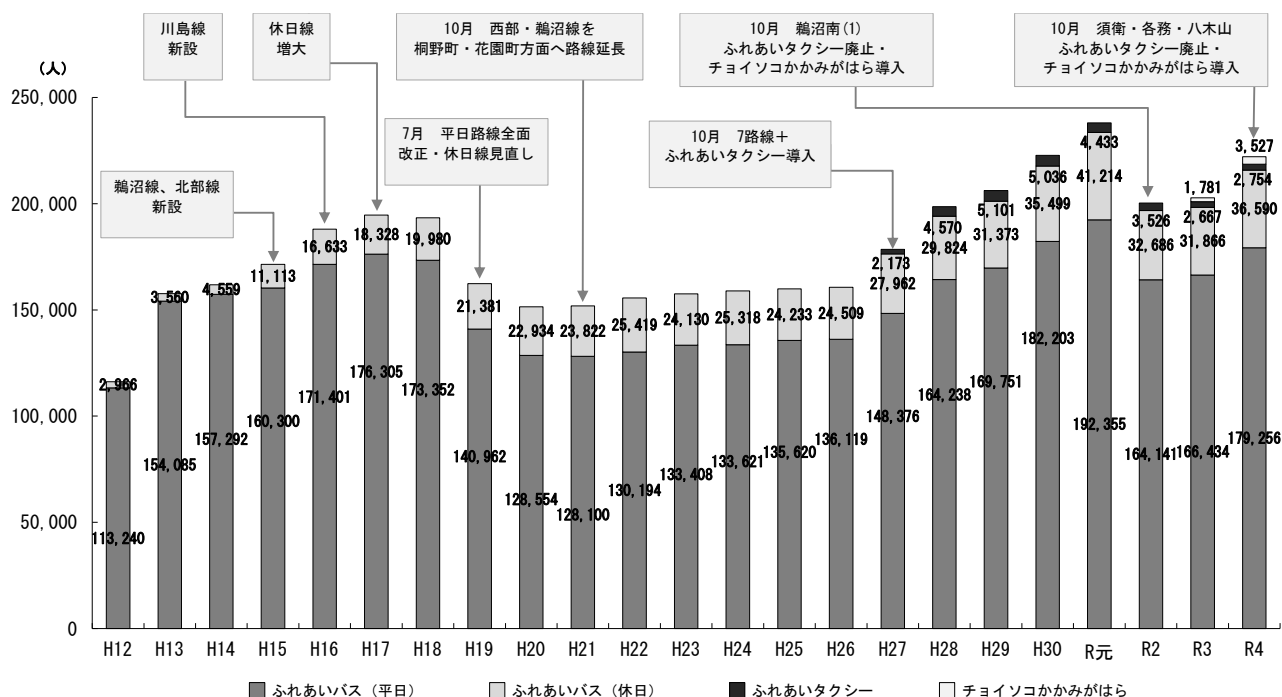


図 ふれあいバス・ふれあいタクシー・チョイソコかかみがはらの年間乗車人数

資料：各務原市都市計画基礎調査

(2) 鉄道

◎市内には JR 高山本線の駅が4 駅、名鉄各務原線の駅が12 駅立地しています。乗降客数は、名鉄犬山線と接続する新鵜沼駅が突出して多くなっています。

●名鉄各務原線は、令和5 年3 月18 日のダイヤ改正により全線で普通列車のみの運行となりました。

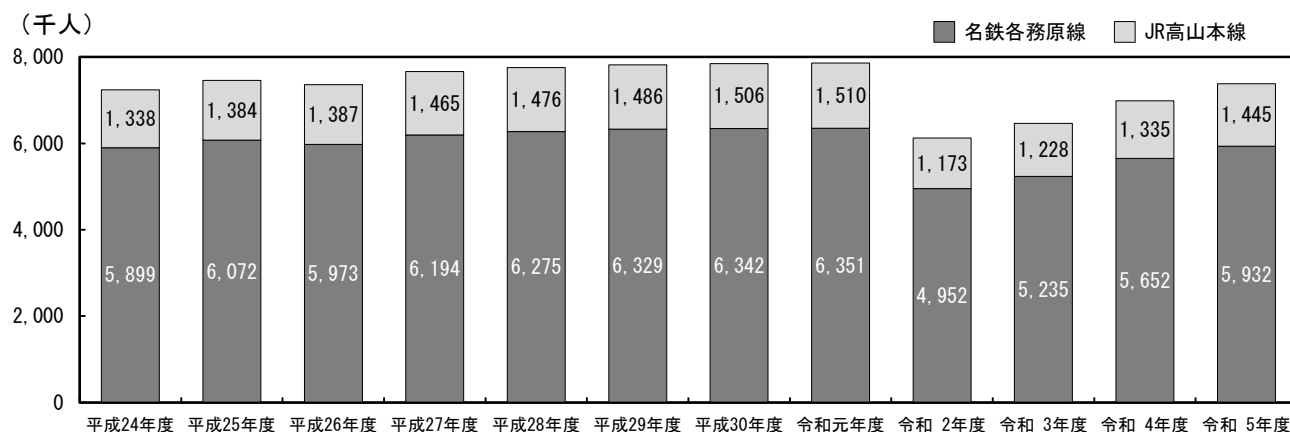


図 各務原市内鉄道駅の乗車人員合計の推移

資料：各務原市都市計画基礎調査

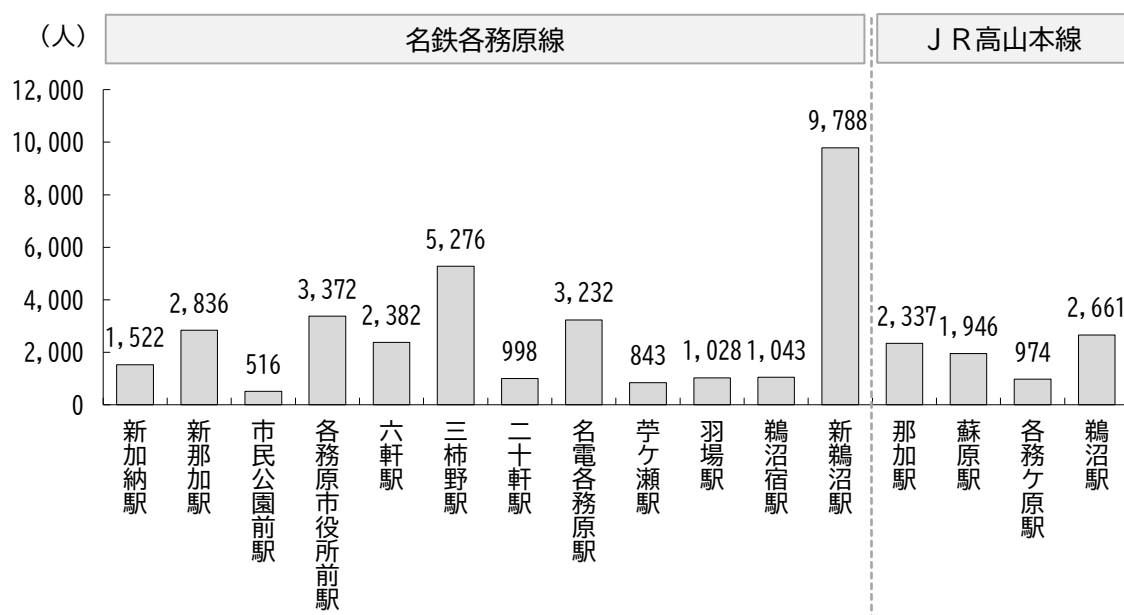


図 1日当たりの平均駅別乗客数

資料：各務原市都市計画基礎調査

3 公園・緑地

◎市北部に丘陵地帯、南部に木曽川、中心を桜並木とともに清流が流れる美しい自然環境を有しています。また、計画決定されている都市公園は 173 箇所、計画面積は 170.2ha であり、一部を除いて供用開始済です。

◎都市公園法施行令に示されている住民一人当たりの都市公園の敷地面積は、標準値 10 m²/人に対し当市は 17.26 m²/人と高水準です。

●一方、合計公園面積が大きく、公園施設の老朽化が進んでいるため維持管理コストの増加が懸念されています。

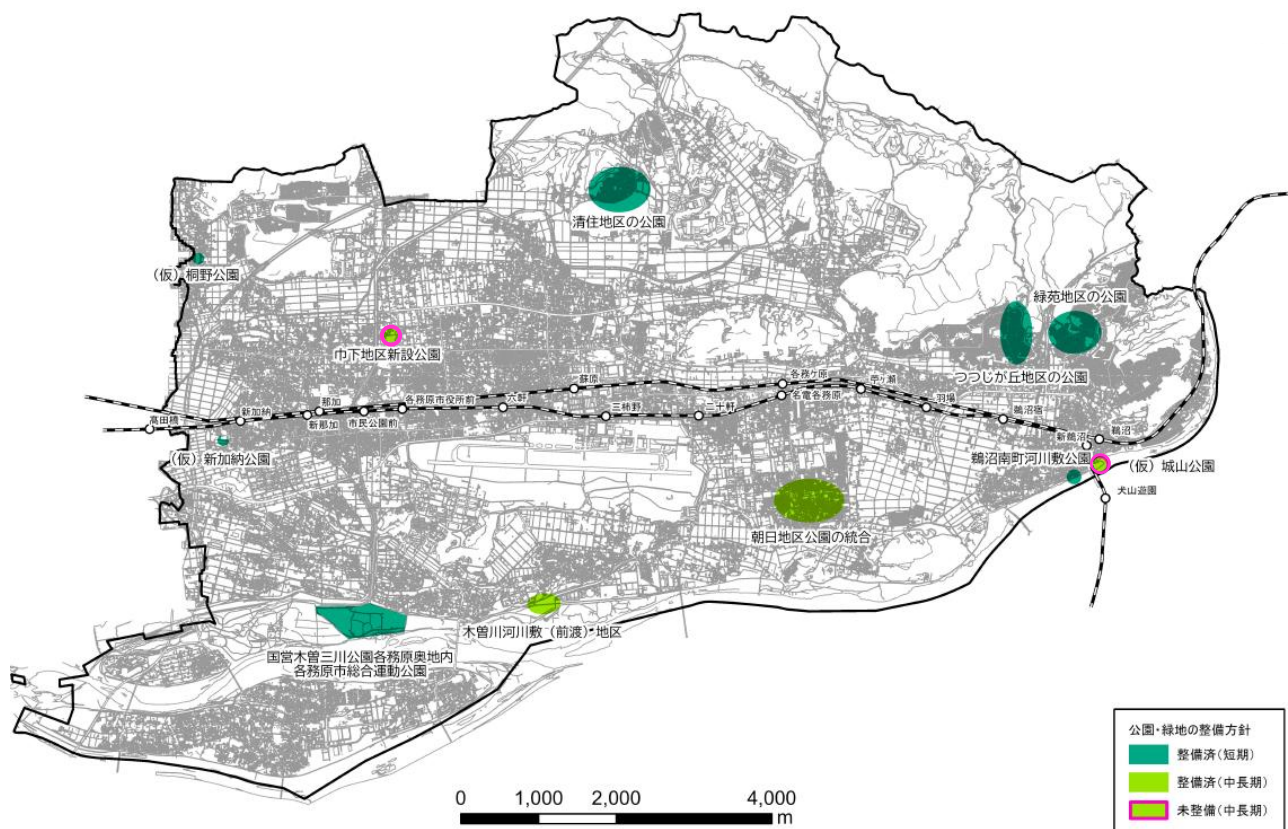


図 公園緑地の整備状況

資料：各務原市都市計画基礎調査

4 下水道・河川

(1) 下水道の整備状況

◎令和6年4月1日現在で、処理人口は121,264人、下水道普及率は83.9%です。

●経年劣化により施設の老朽化が進んでおり、長寿命化を図る必要があります。

表 下水道の整備状況

供用区域（令和6年4月1日現在）			
行政区人口 （人）	処理人口 （人）	整備済綿製 （ha）	下水道普及 率 （％）
144,451	121,264	2688.1	83.9

資料：各務原市統計

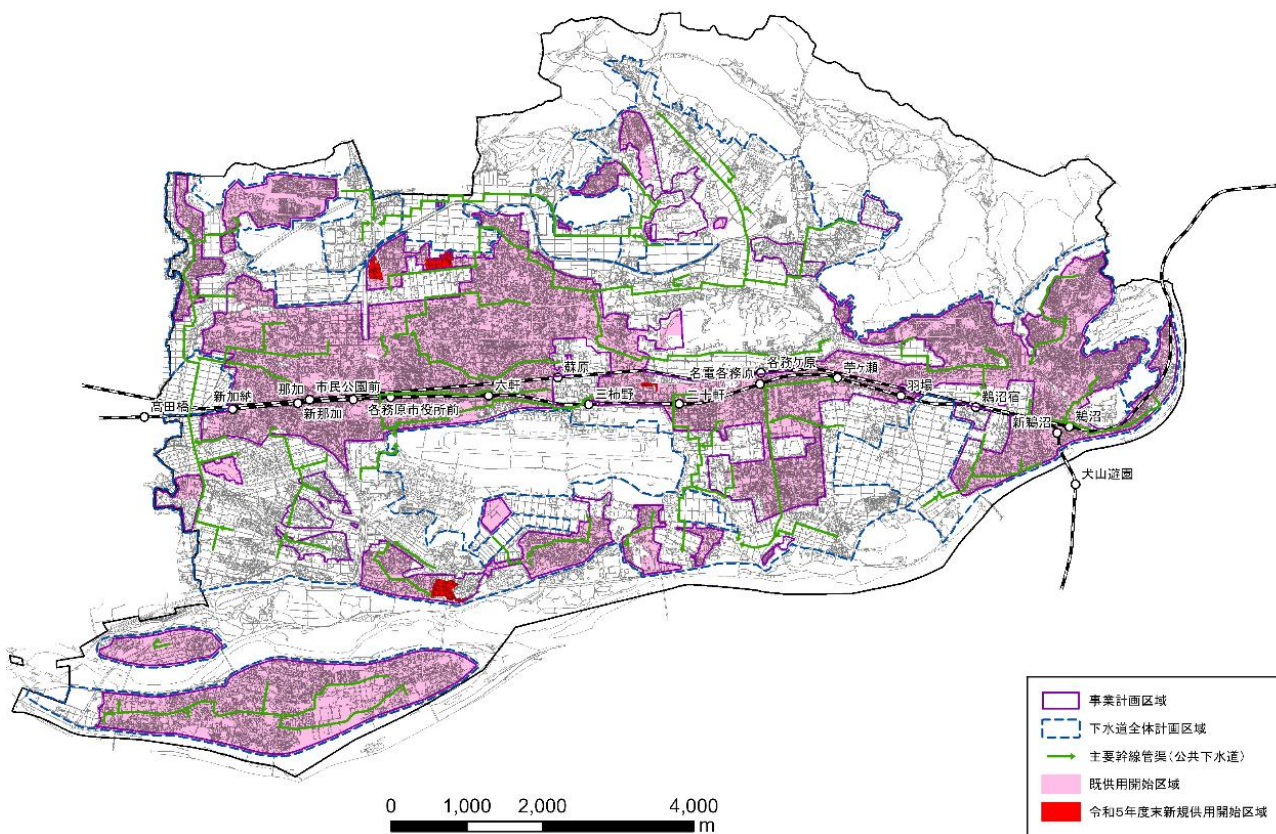


図 公共下水道供用区域

資料：各務原市資料

(2) 河川・池沼の現況

◎市内を流れる主要な河川として、木曽川、境川、新境川、大安寺川があります。

●特に、境川は下流河川断面が不足していることから、流域内における雨水の流出を抑制する貯留施設の整備等総合的な治水対策が必要です。

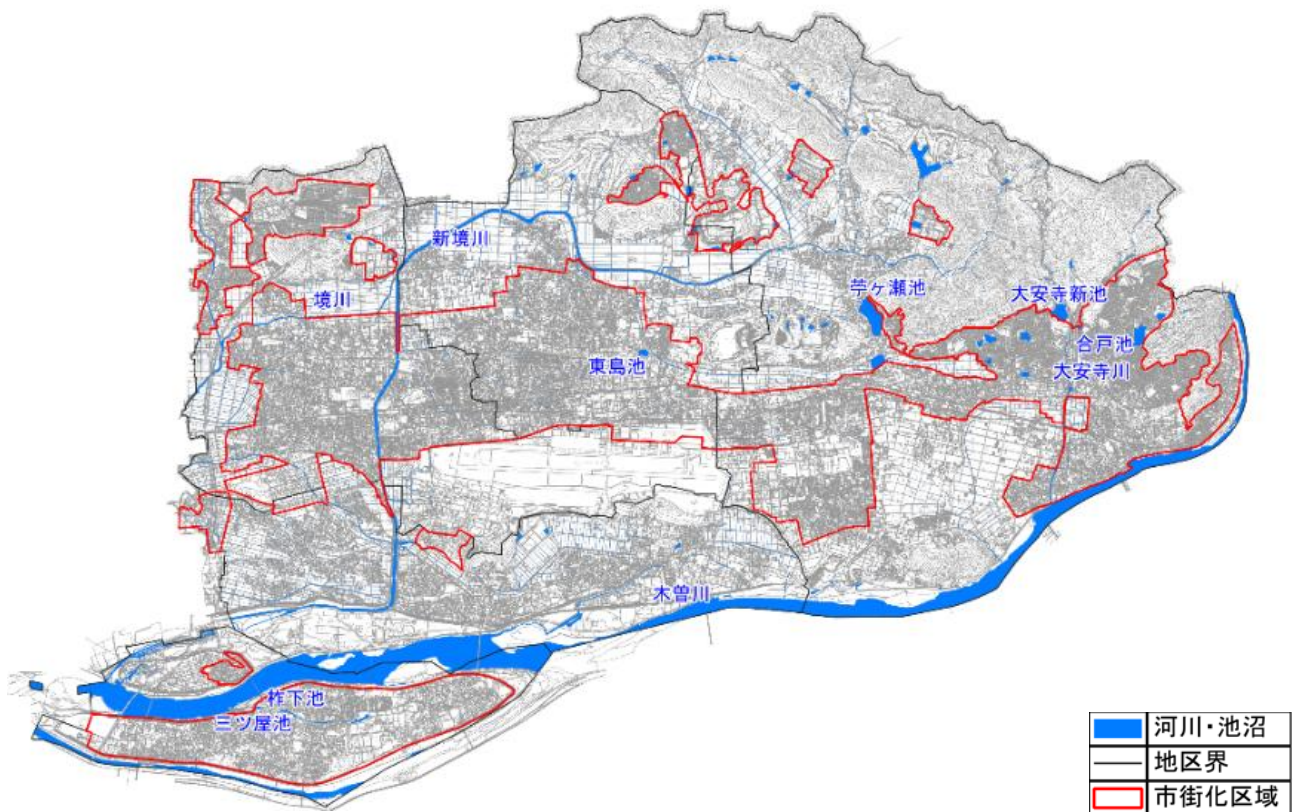


図 河川・池沼の現況

資料：各務原市都市計画基礎調査

5. 市街地整備

※◎本市の強み ●本市の弱み

◎鉄道駅沿線周辺を中心に、29 地区の地区計画、22 の土地区画整理事業が実施されています。

●市内の地区計画道路本数は 226 路線、道路延長は 36.871km です。地区計画道路の整備状況は、37 路線、10,214km が整備済みであり、現時点で約 28%にとどまっています。



図 市街地整備の状況

資料：各務原市都市計画基礎調査

1 景観、歴史・文化

(1) 景観

◎前計画の計画期間中には、下記の景観計画の変更を行い各地域の特色に応じた一体感のある景観形成を誘導しました。また、現在は 30 地区の重点風景地区、3 地区の景観地区を指定し、各地区独自の景観計画に沿って、良好な景観形成を図っています。

表

実施時期	実施内容
平成 28 年度	重点風景地区 中山道鵜沼宿景観計画の変更（屋根の基準緩和）
平成 29 年度	重点風景地区 都心ルネサンス景観計画の変更（区域区分変更）
令和元年度	景観計画の変更（区域区分変更） ①鵜沼南町地区：市街化編入に伴う景観計画区域の変更 ②大安寺川沿い地区：木曾川河景観計画の範囲拡大による景観計画区域の変更 ③各務原市景観計画（鵜沼南町地区）：風景区域・建築物の高さの最高限度の変更
令和 2 年度	前渡西町景観計画の決定（重点風景地区） 景観計画変更 ①風景区域・建築物の高さの最高限度一部変更 （区域区分変更） ②市民会館周辺地区：各務山の前町地区の市街化編入に伴う変更 ③大安寺川沿い地区：鵜沼西町地区の市街化編入に伴う変更
令和 4 年度	各務山西部景観計画の変更及び各務山西部地区景観地区の決定
令和 6 年度	岐阜各務原 IC 周辺景観計画の変更 各務原市景観計画の変更 ①建築物の高さの最高限度の特例措置変更 ②建築基準法施行令の改訂による項目のズレ修正

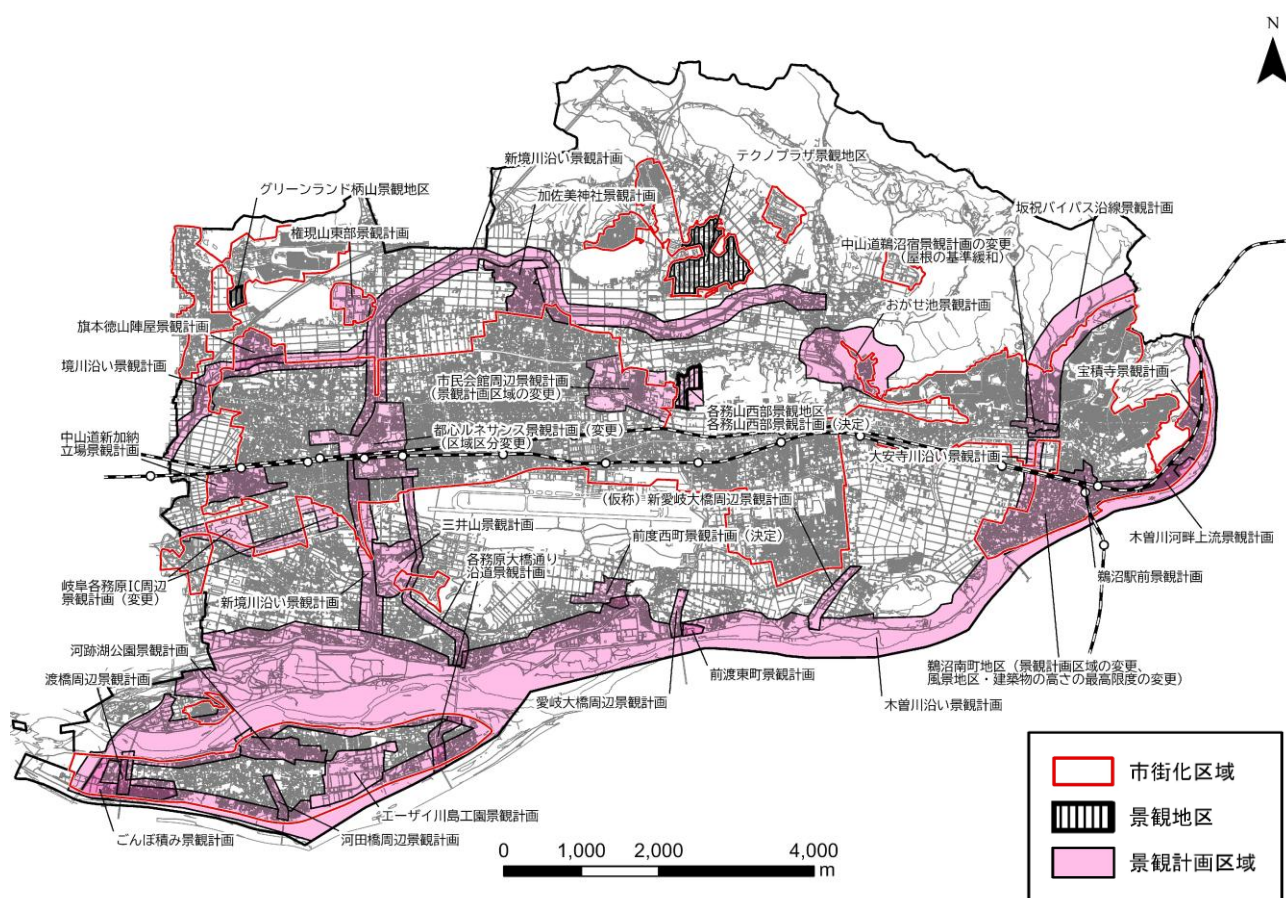


図 景観計画区域と重点風景地区

資料：各務原市資料

(2) 歴史・文化

◎中山道鵜沼宿や新加納立場、村国座（子供歌舞伎）などの歴史的・文化的資源が数多く存在しています。中山道鵜沼宿、芋ヶ瀬池、村国座をつなぐ中山道、おがせ街道等の道路沿道を本市の主要な歴史資源・地区を結ぶ『各務野歴史街道』と位置付け、その位置付けにふさわしい沿道景観の形成を図る整備を進めました。

◎城山は、かつて鵜沼城が存在していた歴史的に貴重な場所です。



中山道鵜沼宿



村国座



各務野歴史街道サイン整備



各務原市東部地区周遊ルート整備



城山

2 安全安心

(1) 土砂災害リスク

- 尾崎地区、松が丘・つつしが丘地区、鵜沼台・新鵜沼台地区、鵜沼宝積寺町地区では、大規模住宅団地の広い範囲で土砂災害特別警戒区域が指定されています。

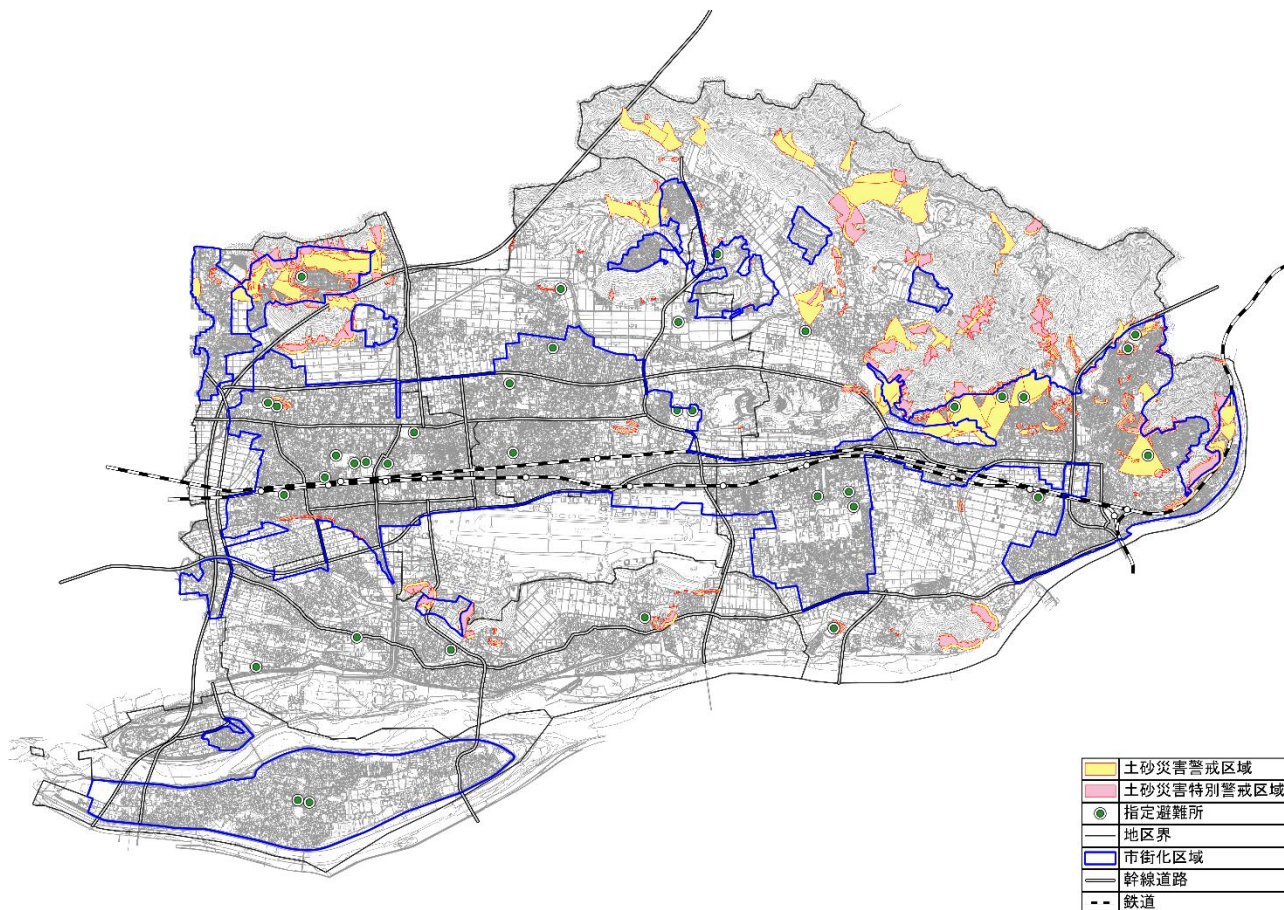


図 土砂災害の想定状況

資料：各務原市都市計画基礎調査

(2) 浸水想定リスク

- 「川島地区」や「稲羽地区」、「那加地区」の那加前洞新町、那加前野町、那加桐野町といった地域は、L1（河川整備において基本となる降雨）において浸水被害が想定されています。
- 平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間で、平成 30 年 7 月豪雨と令和 2 年 7 月豪雨の影響により、計 32 地点において浸水による水害が発生しています。

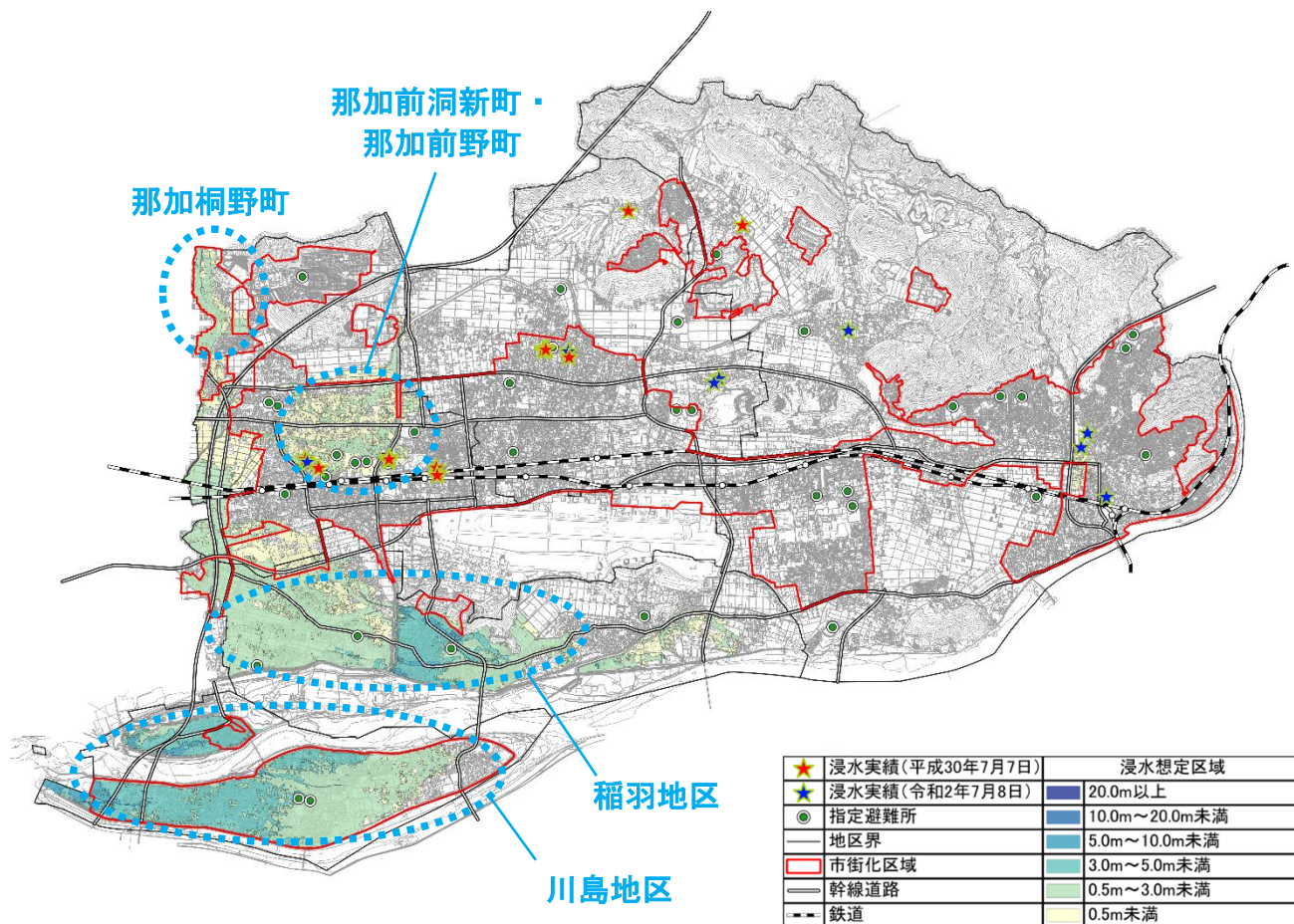


図 水害の想定状況（L1：河川整備において基本となる降雨）

資料：各務原市都市計画基礎調査

3 環境対策

(1) ごみ焼却量及びリサイクル率の推移

◎ごみ焼却量は年々減少傾向にある。

◎リサイクル率は27%前後と高水準を維持している。(国：19.6%、県：16.9% (令和4年度実績))

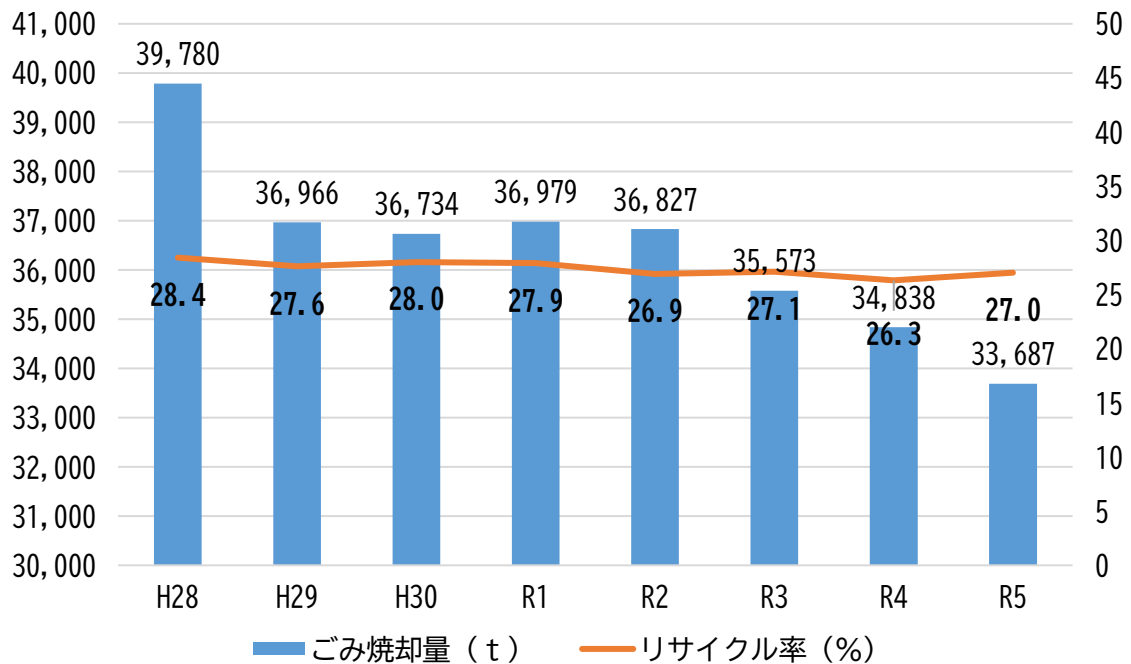


図 ごみ焼却量及びリサイクル率の推移 (H28～R5) 資料：各務原市資料

(2) 温室効果ガス排出量の現状

◎本市の温室効果ガスの排出量は、年々減少傾向がつづいており、平成25年度から令和2年度にかけて22.5%減少している。

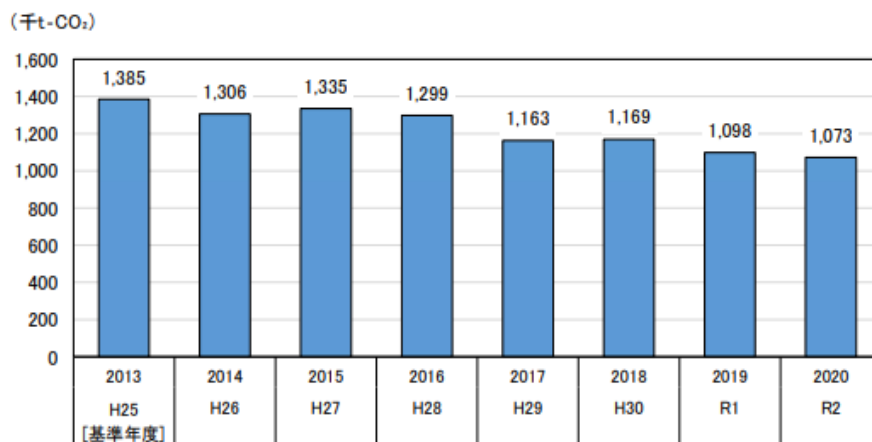


図 温室効果ガスの排出量の推移 資料：各務原市資料